

佐賀市南商工会における経済動向分析

令和8年1月
佐賀市南商工会

目 次

1. RESAS地域経済分析システムなどを活用した地域の経済動向	—	2
----------------------------------	---	---

1. 人口推移など	—————	2
-----------	-------	---

2. 産業特性	—————	9
---------	-------	---

3. 観光・交流人口	—————	19
------------	-------	----

2. 佐賀市南部エリアの魅力的地域づくりアンケート調査	—	24
-----------------------------	---	----

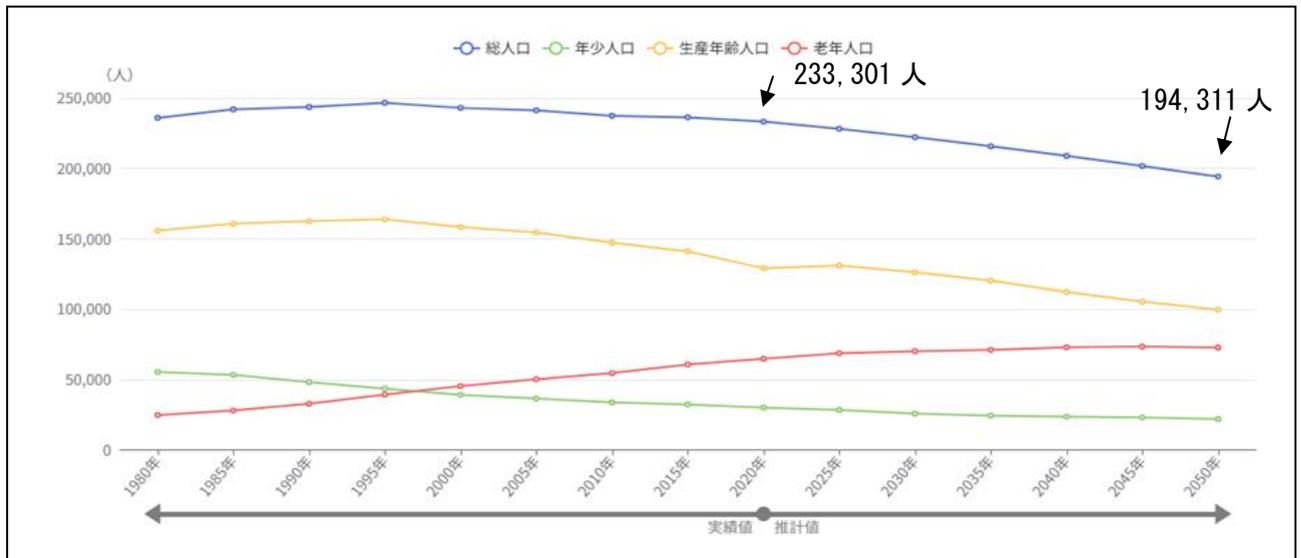
1

人口推移など

1. 佐賀市の人口

佐賀市の人口は、2020年現在、233,301人です。30年後の2050年は、194,311人と推計されています。全体で38,990人減少すると見込まれています。

佐賀市の人口推移



【RESAS 操作】 人口マップ → 人口構成分析 → 表示する地域を指定する(佐賀県、佐賀市) → 人口推移

佐賀市の2020年値と2025年推計値の人口3区分をみると、年少人口、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加するものと予測されています。

2020年値と2025年推計値の人口3区分

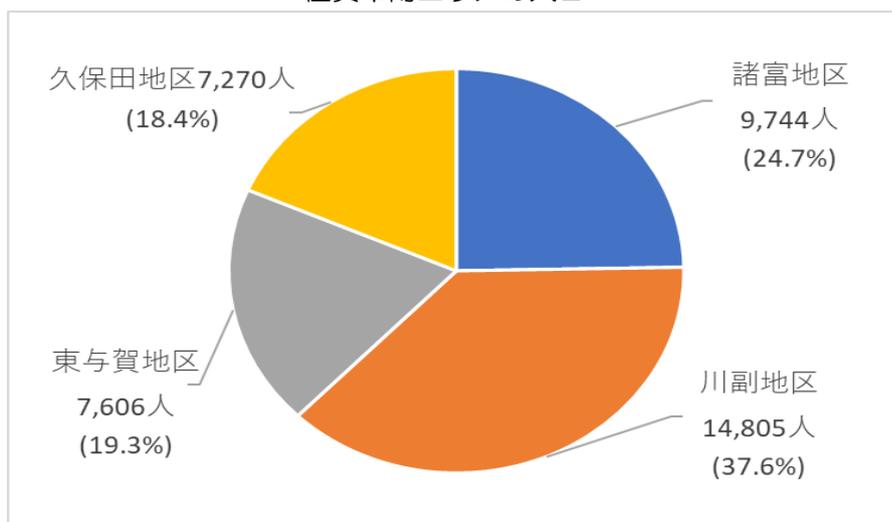
	2020年		2050年	
	現状値	割合(%)	推計値	割合(%)
年少人口(～15歳)	30,064	12.89	21,929	11.29
生産年齢人口(16歳～64歳)	129,142	55.35	99,639	51.28
老年人口(65歳～)	64,802	27.78	72,743	37.44
総人口	233,301	-	194,311	-

※総数には年齢不詳を含む

2. 佐賀市南エリアの人口・世帯数

佐賀市南エリア(諸富地区・川副地区・東与賀地区・久保田地区)の人口は、2024年現在、39,425人です。地区別では諸富地区が24.7%、川副地区が37.6%、東与賀地区が19.3%、久保田地区が18.4%となっています。

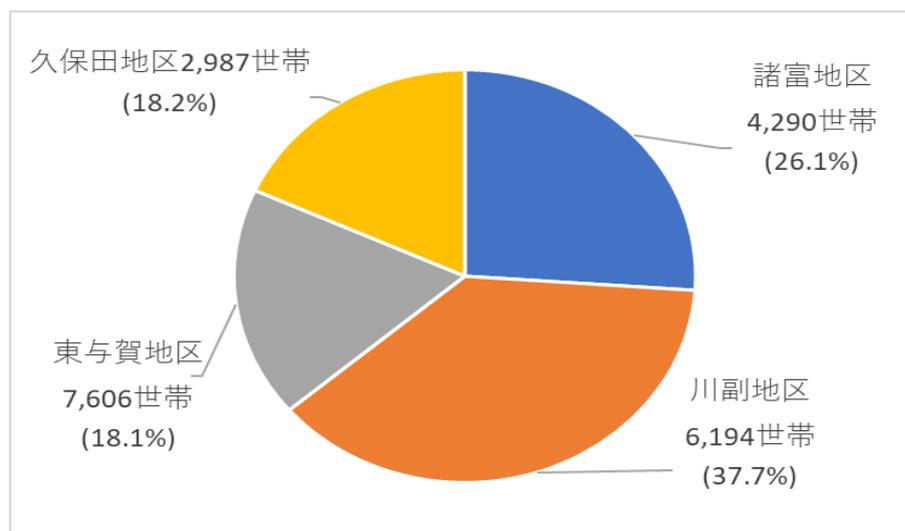
佐賀市南エリアの人口



出典：佐賀市(住民基本台帳)

佐賀市南エリア(諸富地区・川副地区・東与賀地区・久保田地区)の世帯数は、2024年現在、16,442世帯です。地区別では諸富地区が26.1%、川副地区が37.7%、東与賀地区が18.1%、久保田地区が18.2%となっています。

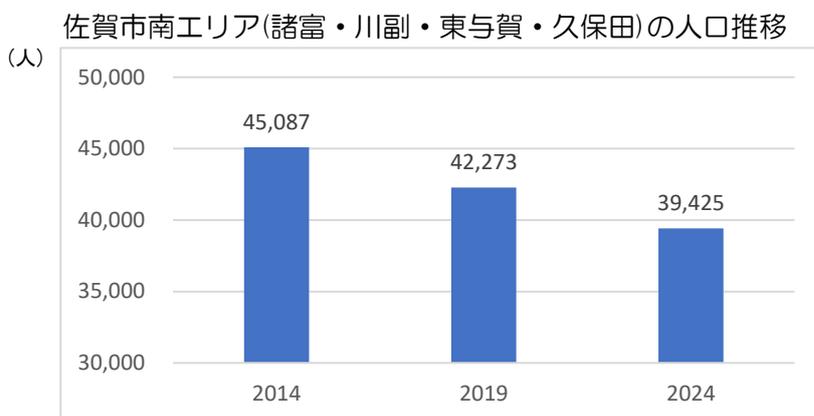
佐賀市南エリアの世帯数



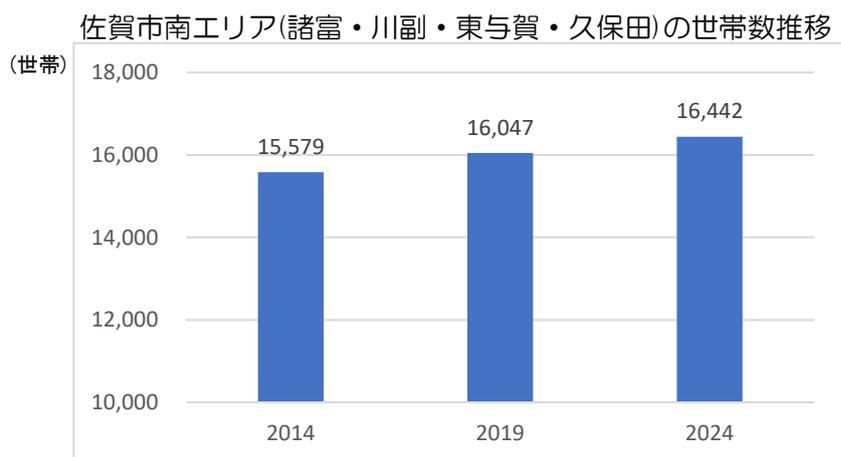
出典：佐賀市(住民基本台帳)

3. 佐賀市南エリア(諸富・川副・東与賀・久保田)の人口、世帯数、一世帯当たり人口推移

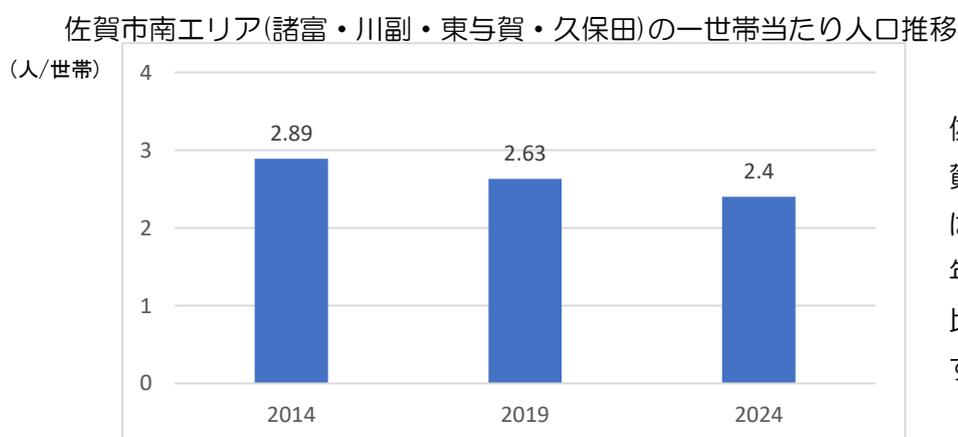
佐賀市南エリア(諸富・川副・東与賀・久保田)の人口は、年々減少傾向にあります。世帯数は年々増加しており、一世帯あたり人口は低下傾向となっています。



佐賀市南エリア(諸富・川副・東与賀・久保田)の人口は2024年現在、39,425人で年々減少しています。10年前と比較して12.6%減少しています。



佐賀市南エリア(諸富・川副・東与賀・久保田)の世帯数は2024年現在、16,442世帯で年々増加しています。10年前と比較して5.5%増加しています。

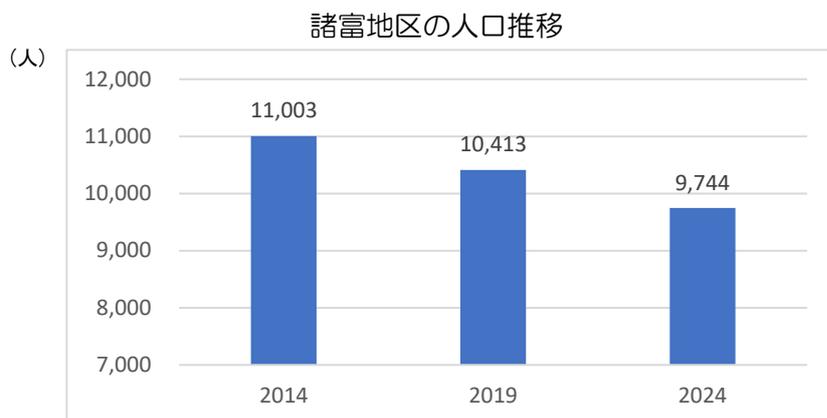


佐賀市南エリア(諸富・川副・東与賀・久保田)の一世帯あたり人口は2024年現在、2.4人/世帯で年々減少しています。10年前と比較して17.0%低下しています。

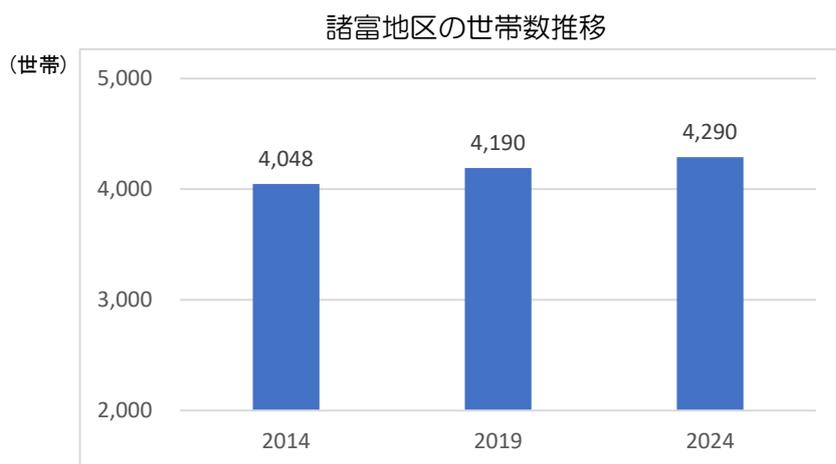
※出典はいずれも佐賀市(住民基本台帳)

4. 諸富地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口推移

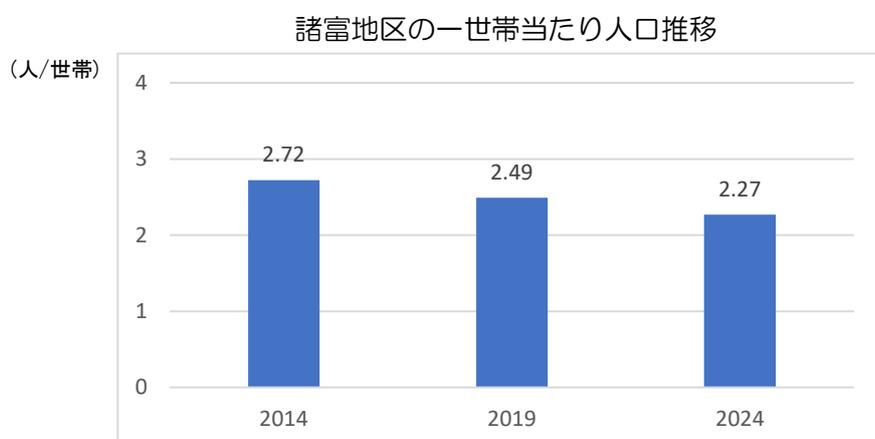
佐賀市南エリアの諸富地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口の推移は以下のとおりとなっています。



諸富地区の人口は2024年現在、9,744人で年々減少しています。10年前と比較して11.4%減少しています。



諸富地区の世帯数は2024年現在、4,290世帯で年々増加しています。10年前と比較して6.0%増加しています。

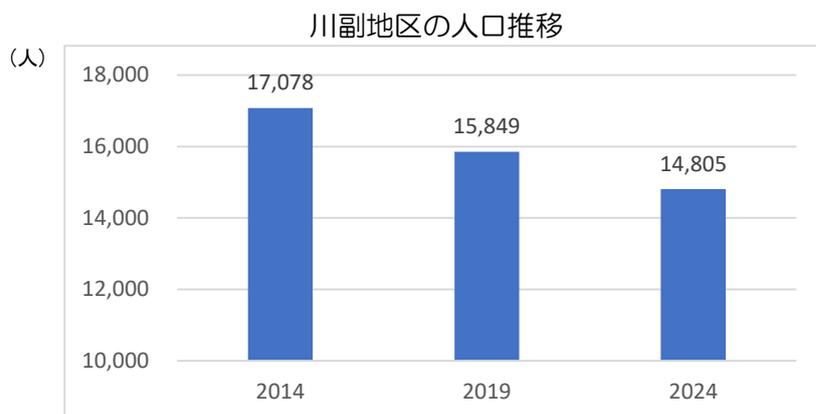


諸富地区の一世帯当たり人口は2024年現在、2.27人/世帯で年々減少しています。10年前と比較して16.5%低下しています。

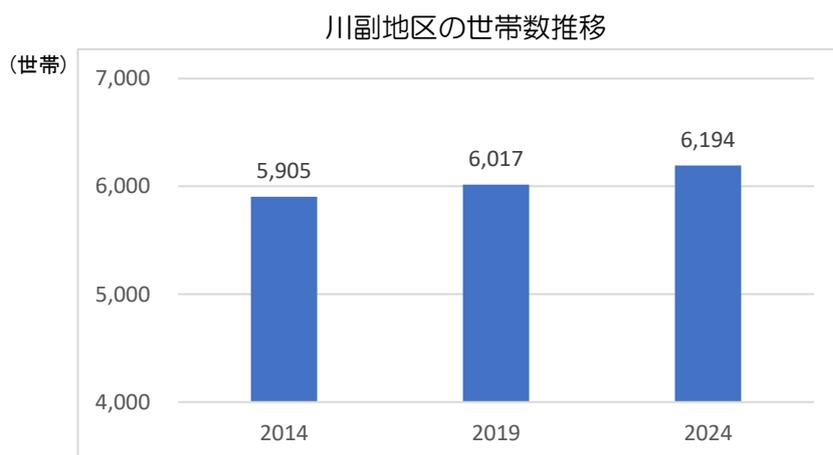
※出典はいずれも佐賀市(住民基本台帳)

5. 川副地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口推移

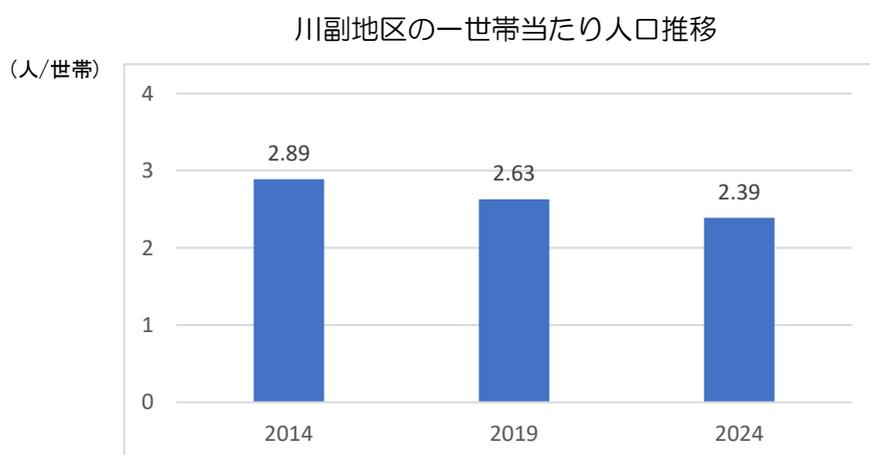
佐賀市南エリアの川副地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口の推移は以下のとおりとなっています。



川副地区の人口は2024年現在、14,805人で年々減少しています。10年前と比較して13.3%減少しています。



川副地区の世帯数は2024年現在、6,194世帯で年々増加しています。10年前と比較して4.9%増加しています。

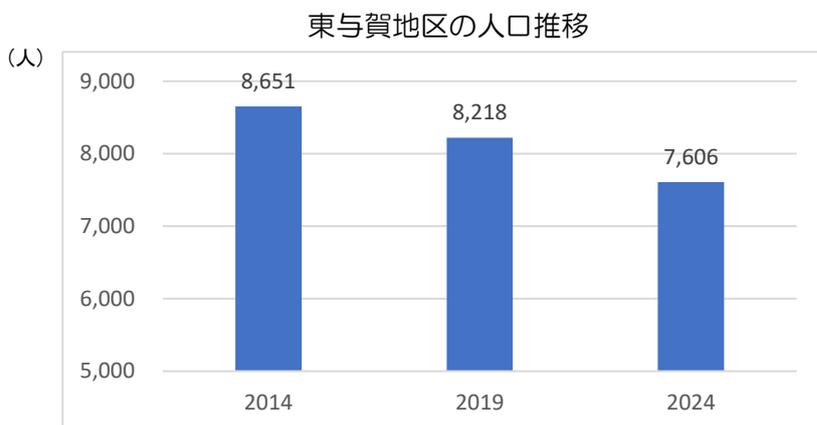


川副地区の一世帯当たり人口は2024年現在、2.39人/世帯で年々減少しています。10年前と比較して17.3%低下しています。

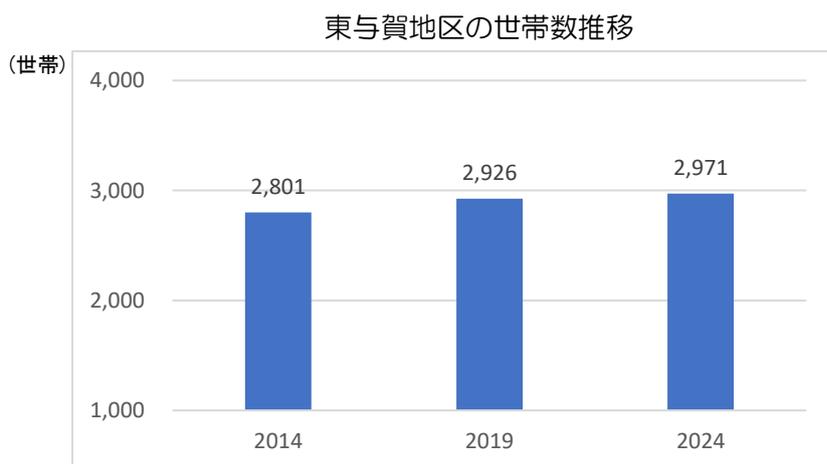
※出典はいずれも佐賀市(住民基本台帳)

6. 東与賀地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口推移

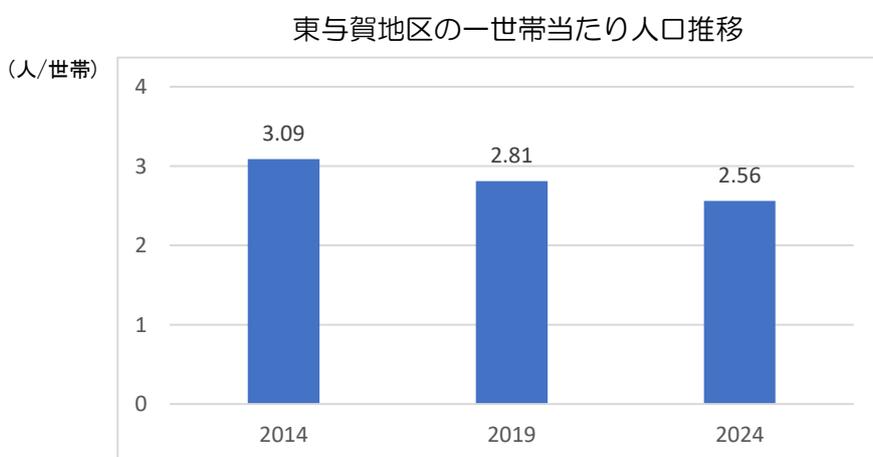
佐賀市南エリアの東与賀地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口の推移は以下のとおりとなっています。



東与賀地区の人口は 2024 年現在、7,606 人で年々減少しています。10 年前と比較して 12.1% 減少しています。



東与賀地区の世帯数は 2024 年現在、2,971 世帯で年々増加しています。10 年前と比較して 6.1% 増加しています。

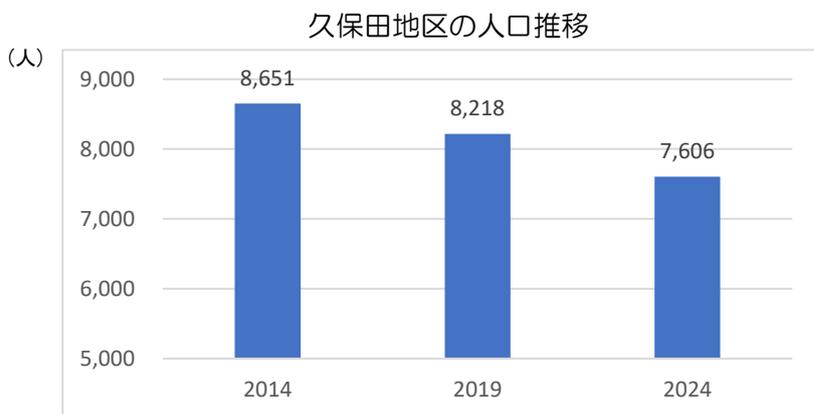


東与賀地区の一世帯当たり人口は 2024 年現在、2.56 人/世帯で年々減少しています。10 年前と比較して 17.2% 低下しています。

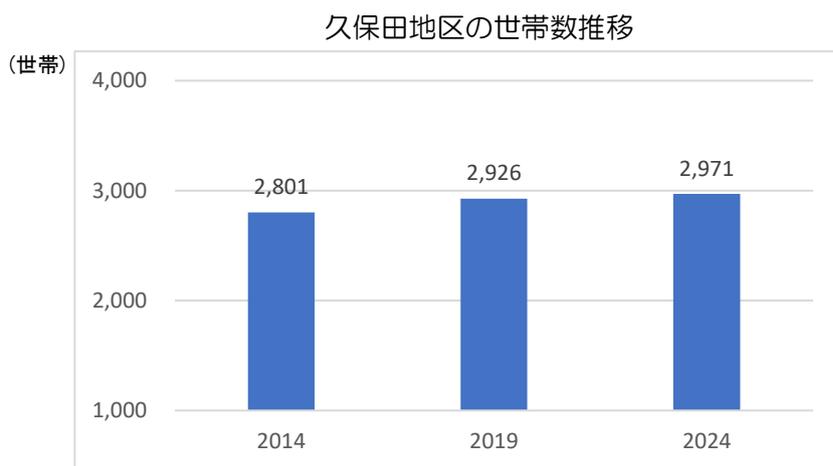
※出典はいずれも佐賀市(住民基本台帳)

7. 久保田地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口推移

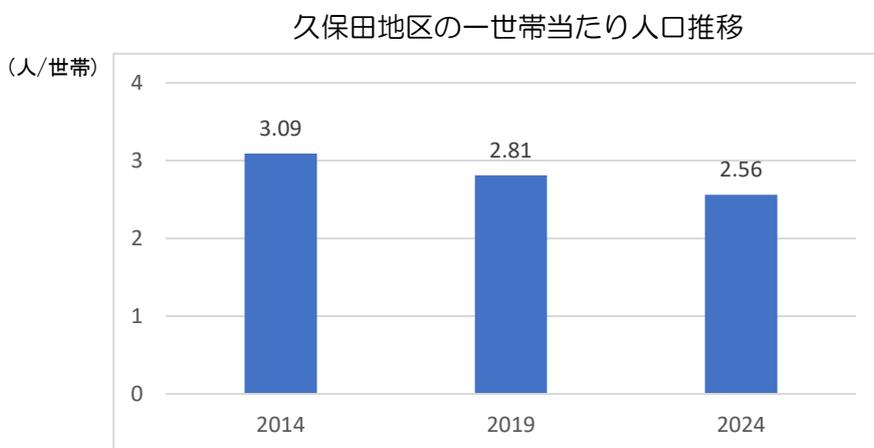
佐賀市南エリアの久保田地区の人口、世帯数、一世帯当たり人口の推移は以下のとおりとなっています。



久保田地区の人口は 2024 年現在、7,606 人で年々減少しています。10 年前と比較して 12.1% 減少しています。



久保田地区の世帯数は 2024 年現在、2,971 世帯で年々増加しています。10 年前と比較して 6.1% 増加しています。



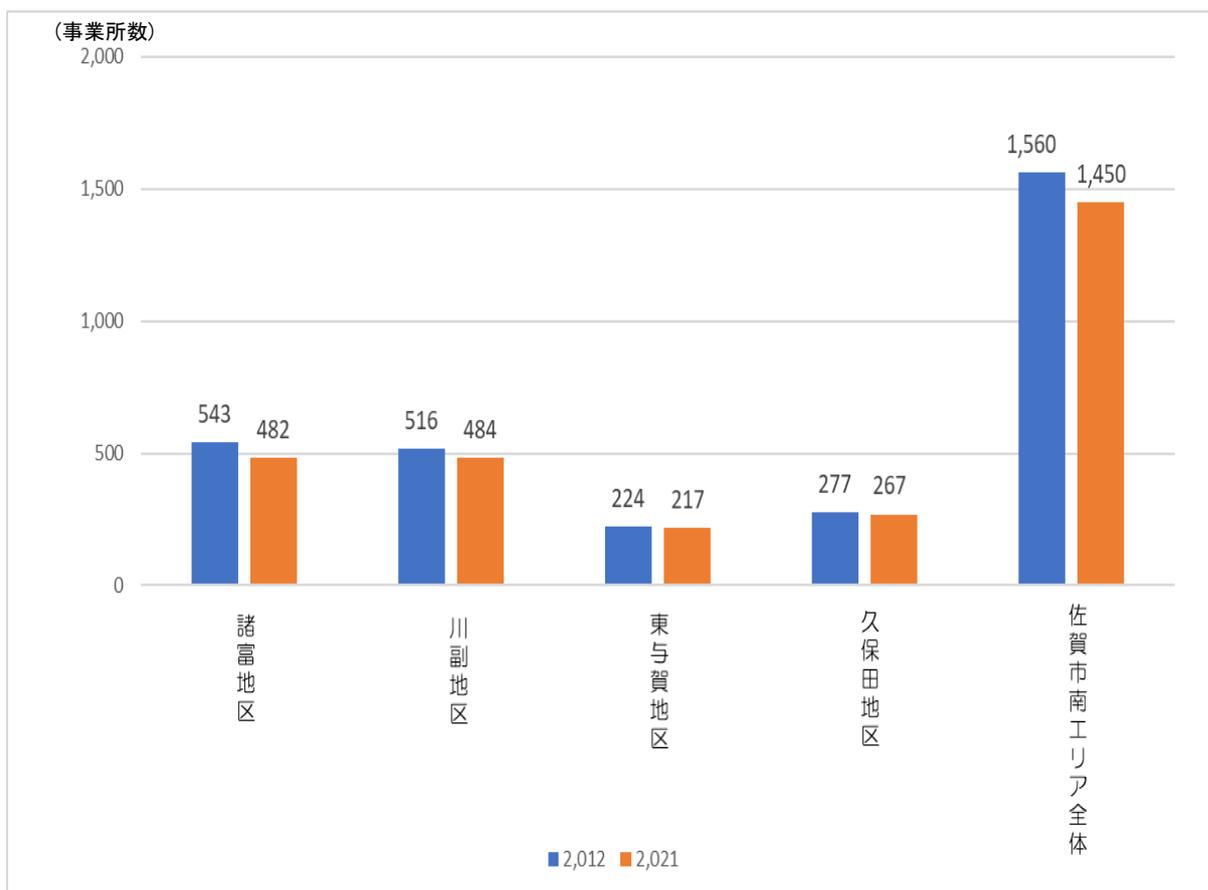
久保田地区の一世帯当たり人口は 2024 年現在、2.56 人/世帯で年々減少しています。10 年前と比較して 17.2% 低下しています。

1. 佐賀市南エリアの事業所数推移

佐賀市南エリアの事業所は、2021年現在 1,450 事業所であり、2012年 1,560 事業所と比較して 110 事業所 7%が減少しています。

地区別で見ると、すべての地区で事業所数は減少しています。

佐賀市南エリアの事業所数推移



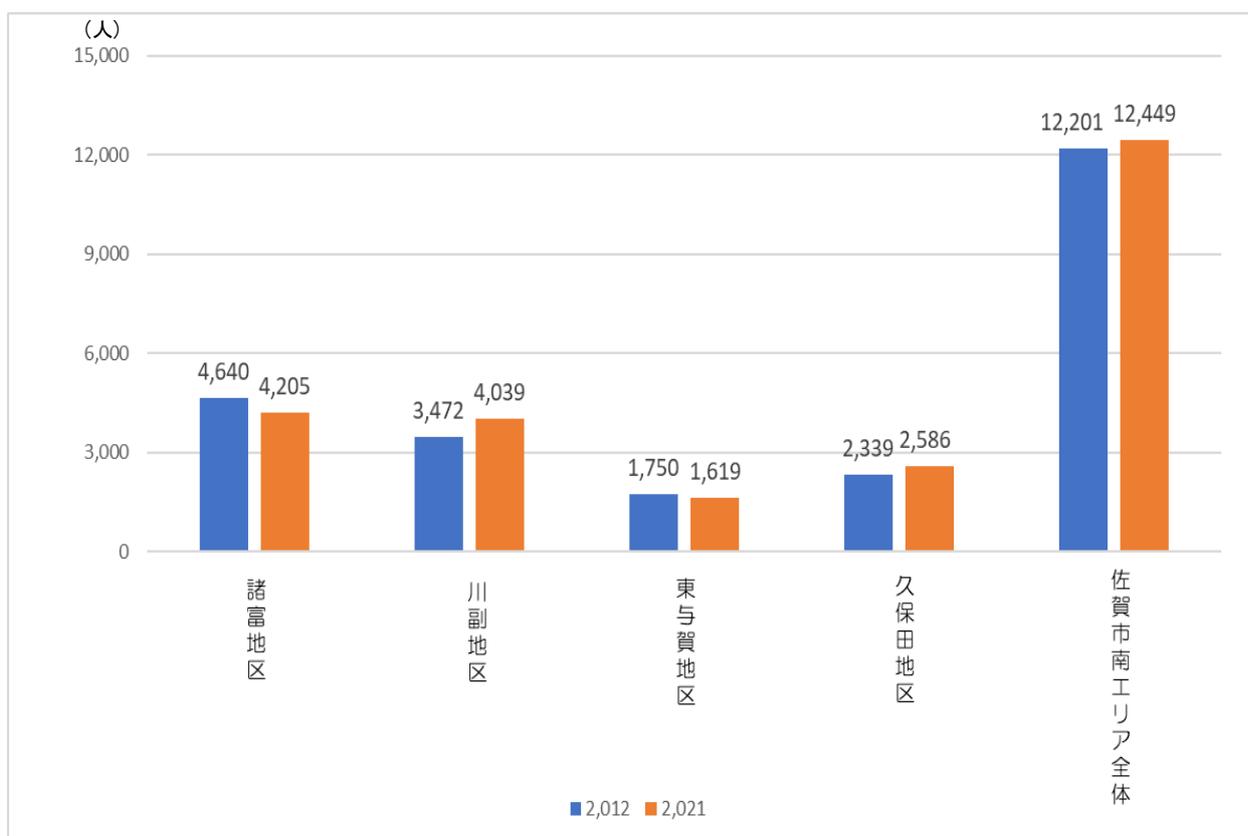
出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

2. 佐賀市南エリアの従業員数推移

佐賀市南エリアの従業員数は、2021年現在12,449人であり、2012年12,201人と比較して248人2%が増加しています。

地区別で見ると、川副地区、久保田地区で従業員数は増加しており、諸富地区、東与賀地区で減少となっています。

佐賀市南エリアの従業員数推移

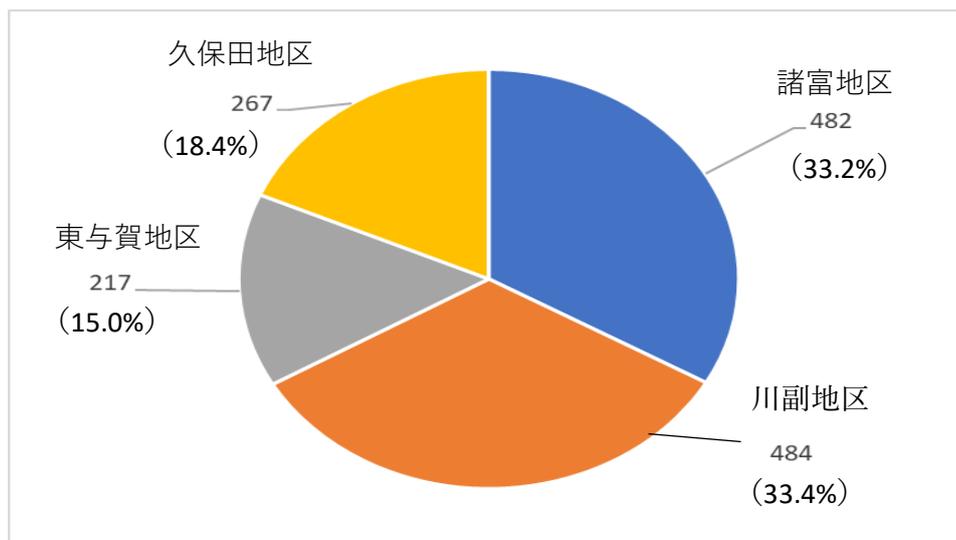


出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

3. 佐賀市南エリア地区別事業所、従業員数割合

佐賀市南エリアの事業所数を地区別にみると、諸富地区が 482 事業所 33%、川副地区が 484 事業所 33%、東与賀地区が 217 事業所 15%、久保田地区が 267 事業所 18%となっています。

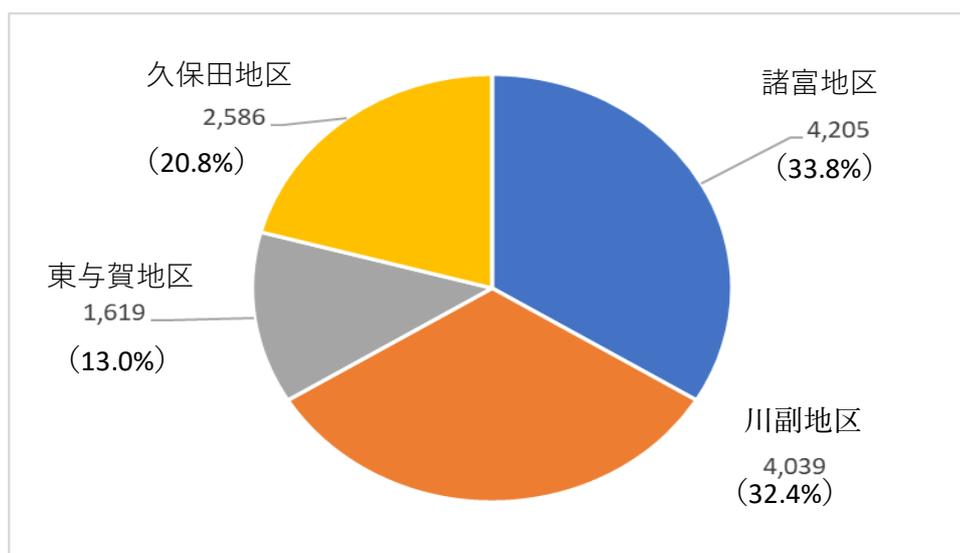
佐賀市南エリアの地区別事業所割合



出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

佐賀市南エリアの従業員数を地区別にみると、諸富地区が 4,205 人 33%、川副地区が 4,039 人 32%、東与賀地区が 1,619 人 13%、久保田地区が 2,586 人 21%となっています。

佐賀市南エリアの地区別従業員数割合

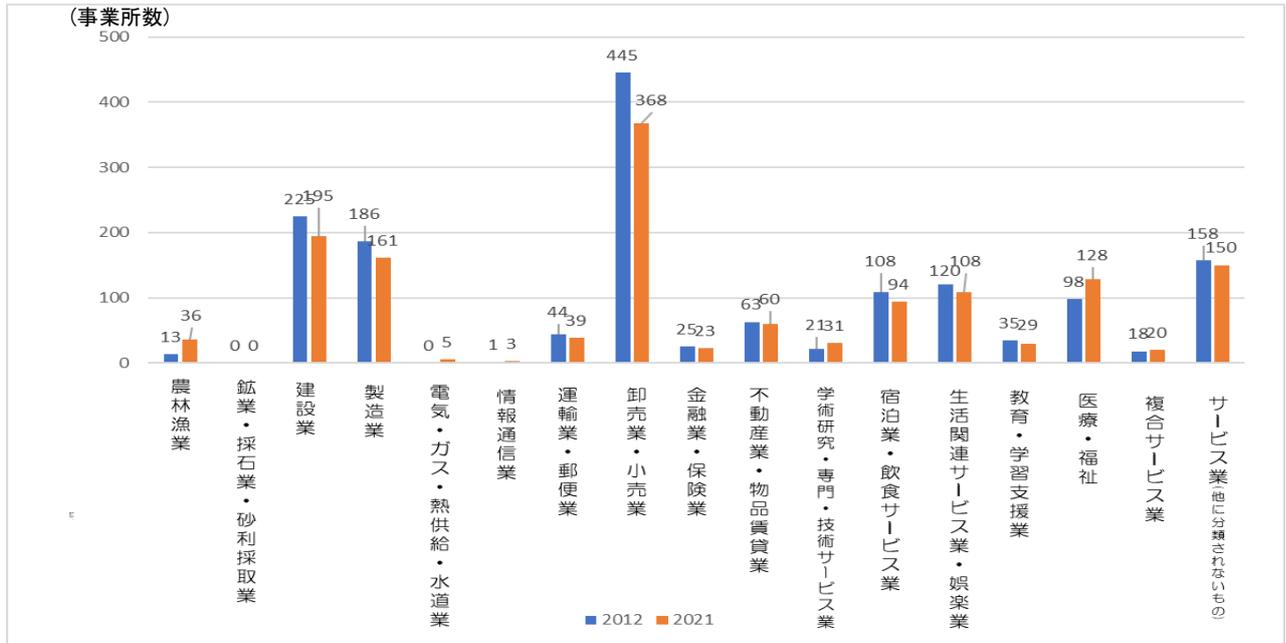


出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

4. 佐賀市南エリアの日本標準産業分類別事業所数、従業員数推移

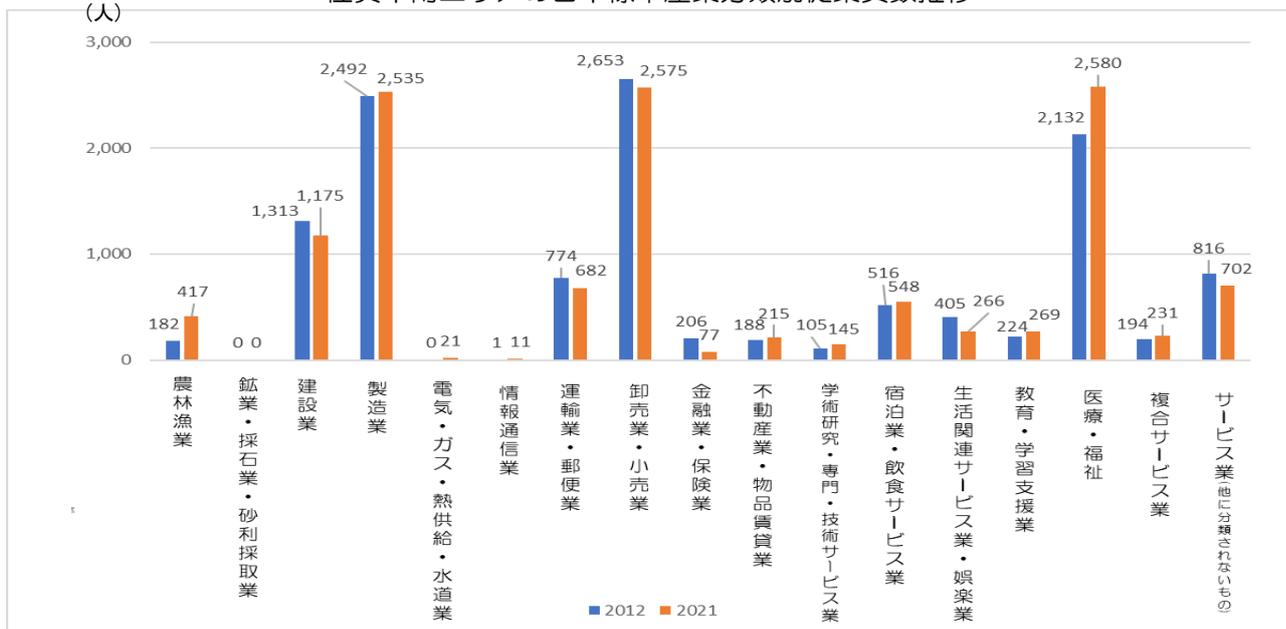
佐賀市南エリアの事業所は日本標準産業分類別では「卸売業・小売業」が最も多いが、事業所数は減少傾向にあります。事業所数が増えているのは、「農林漁業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「医療・福祉」、「複合サービス」となっています。

佐賀市南エリアの日本標準産業分類別事業所数



佐賀市南エリアの従業員数は日本標準産業分類別では2021年現在「医療・福祉」が最も多く増加傾向にあります。次いでほぼ同値で「卸売業・小売業」、「製造業」となっています。従業員数が増えているのは、「農林漁業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「不動産業・物品賃貸業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」、「複合サービス」となっています。

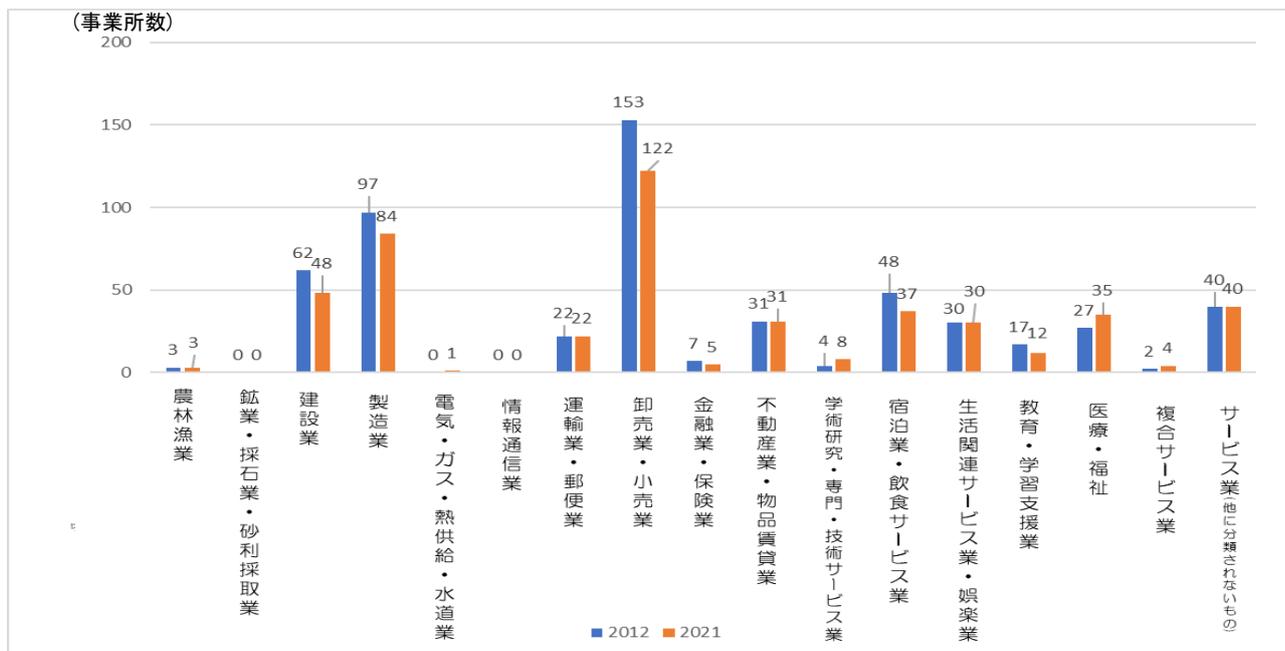
佐賀市南エリアの日本標準産業分類別従業員数推移



5. 諸富地区の日本標準産業分類別事業所数、従業員数推移

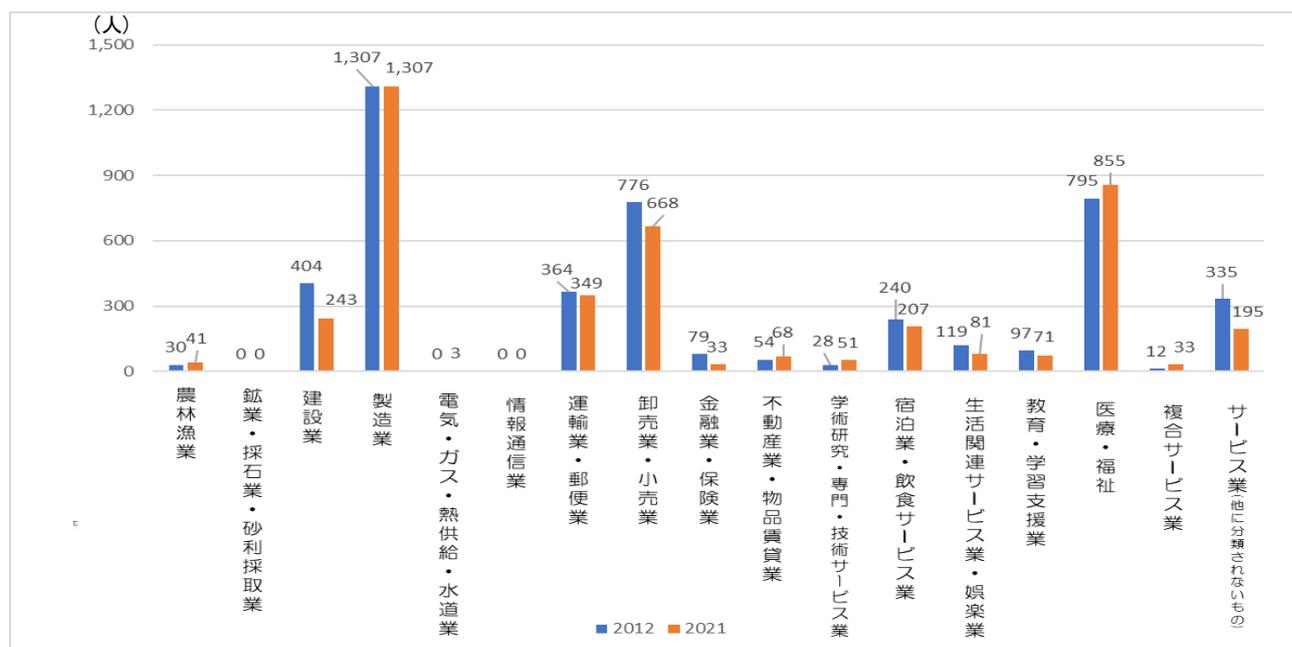
諸富地区の事業所は日本標準産業分類別では「卸売業・小売業」が最も多いが、事業所数は減少傾向にあります。事業所数が増えているのは、「学術研究・専門・技術サービス業」、「医療・福祉」、「複合サービス」となっています。

諸富地区の日本標準産業分類別事業所数



諸富地区の従業員数は日本標準産業分類別では2021年現在「製造業」が最も多く横ばい状況となっています。従業員数が増えているのは、「農林漁業」、「不動産業・物品賃貸業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「医療・福祉」、「複合サービス」となっています。

諸富地区の日本標準産業分類別従業員数推移

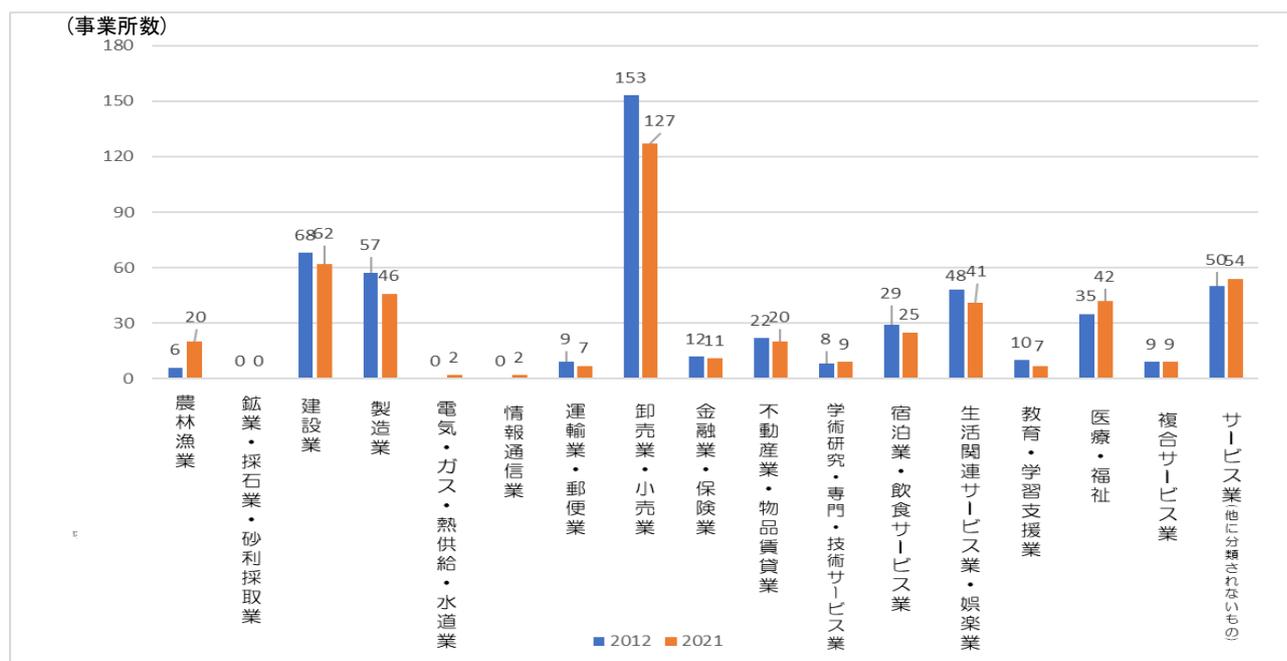


※出典は佐賀市(経済センサスを独自集計)

6. 川副地区の日本標準産業分類別事業所数、従業員数推移

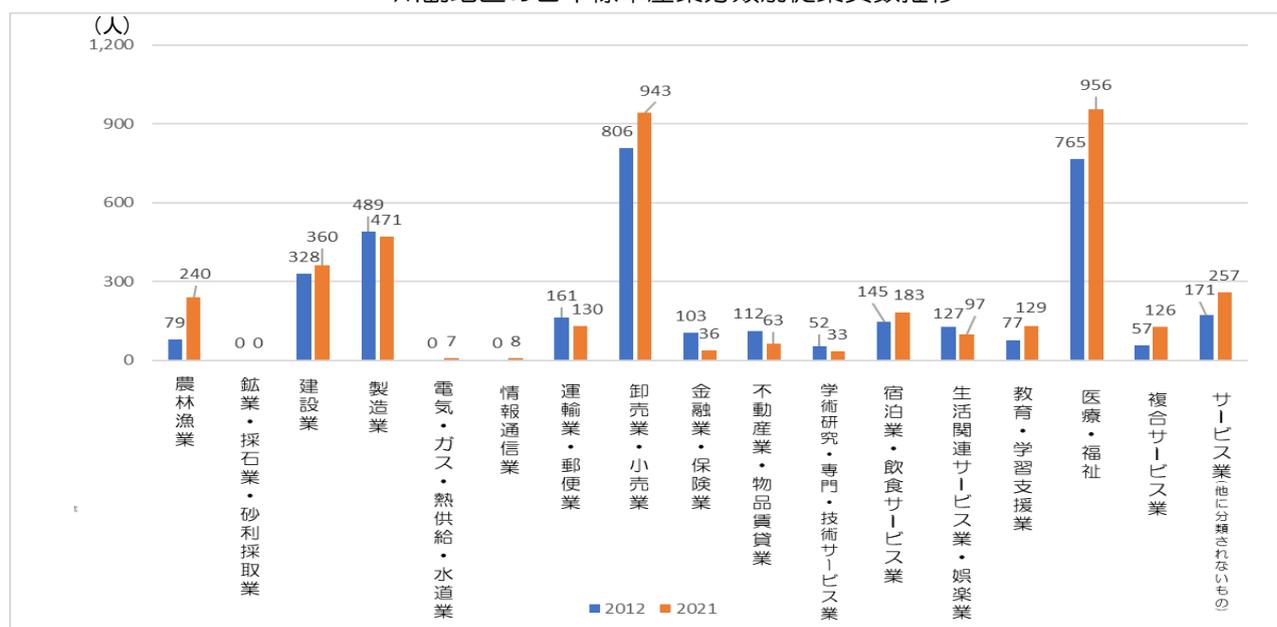
川副地区の事業所は日本標準産業分類別では「卸売業・小売業」が最も多いが、事業所数は減少傾向にあります。事業所数が増えているのは、「農林漁業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「医療・福祉」、「サービス業(他に分類されないもの)」となっています。

川副地区の日本標準産業分類別事業所数



川副地区の従業員数は日本標準産業分類別では2021年現在「医療・福祉」が最も多く増加傾向にあります。従業員数が増えているのは、「農林漁業」、「建設業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「卸売業・小売業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」、「複合サービス」、「サービス業(他に分類されないもの)」となっています。

川副地区の日本標準産業分類別従業員数推移

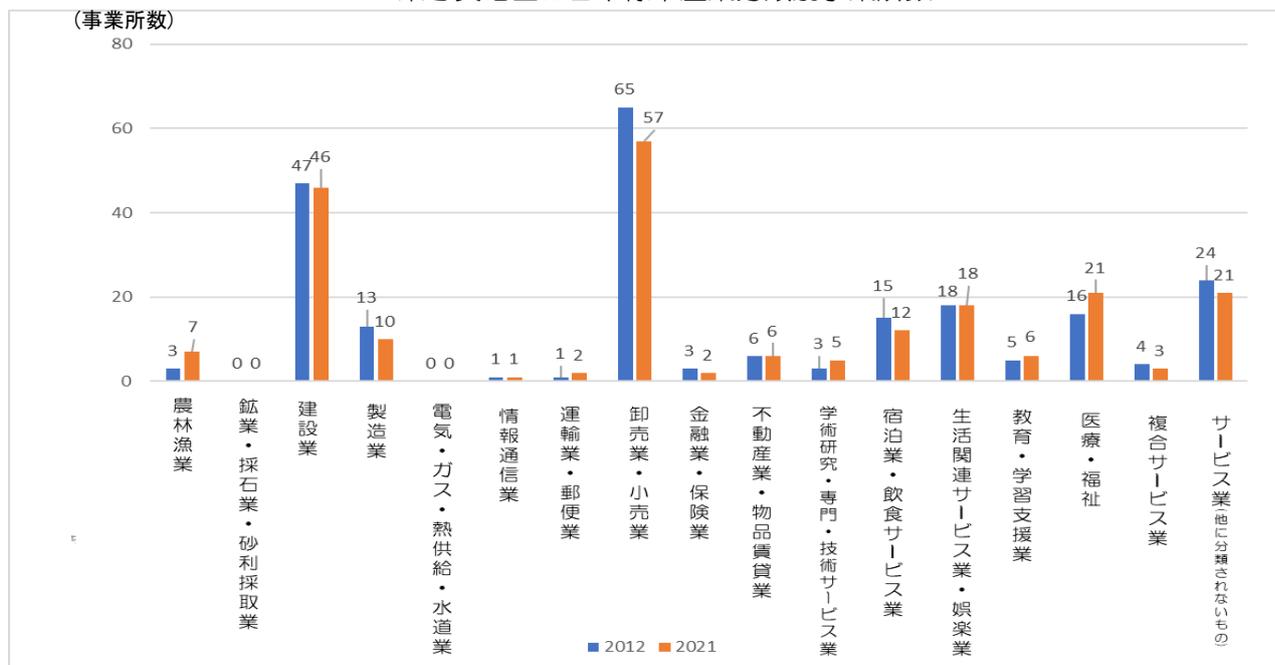


※出典は佐賀市(経済センサスを独自集計)

7. 東与賀地区の日本標準産業分類別事業所数、従業員数推移

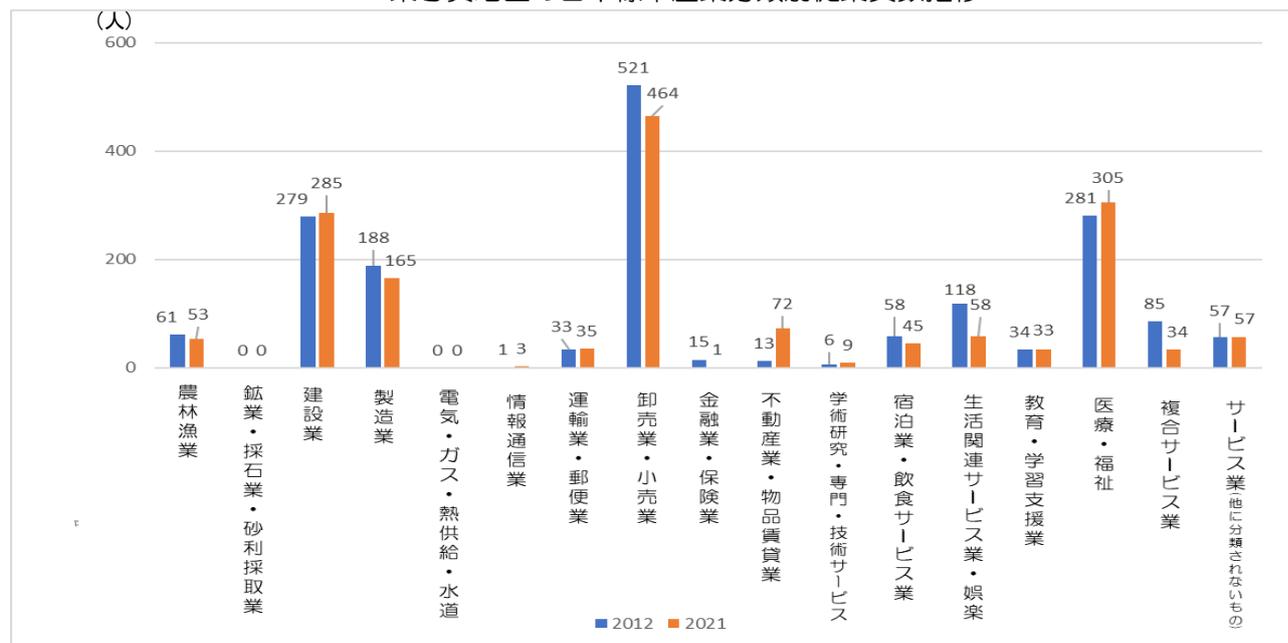
東与賀地区の事業所は日本標準産業分類別では「卸売業・小売業」が最も多いが、事業所数は減少傾向にあります。事業所数が増えているのは、「農林漁業」、「運輸業・郵便業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」となっています。

東与賀地区の日本標準産業分類別事業所数



東与賀地区の従業員数は日本標準産業分類別では 2021 年現在「卸売業・小売業」が最も多いが、減少傾向にあります。従業員数が増えているのは、「建設業」、「情報通信業」、「運輸業・郵便業」、「不動産業・物品賃貸業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「医療・福祉」となっています。

東与賀地区の日本標準産業分類別従業員数推移

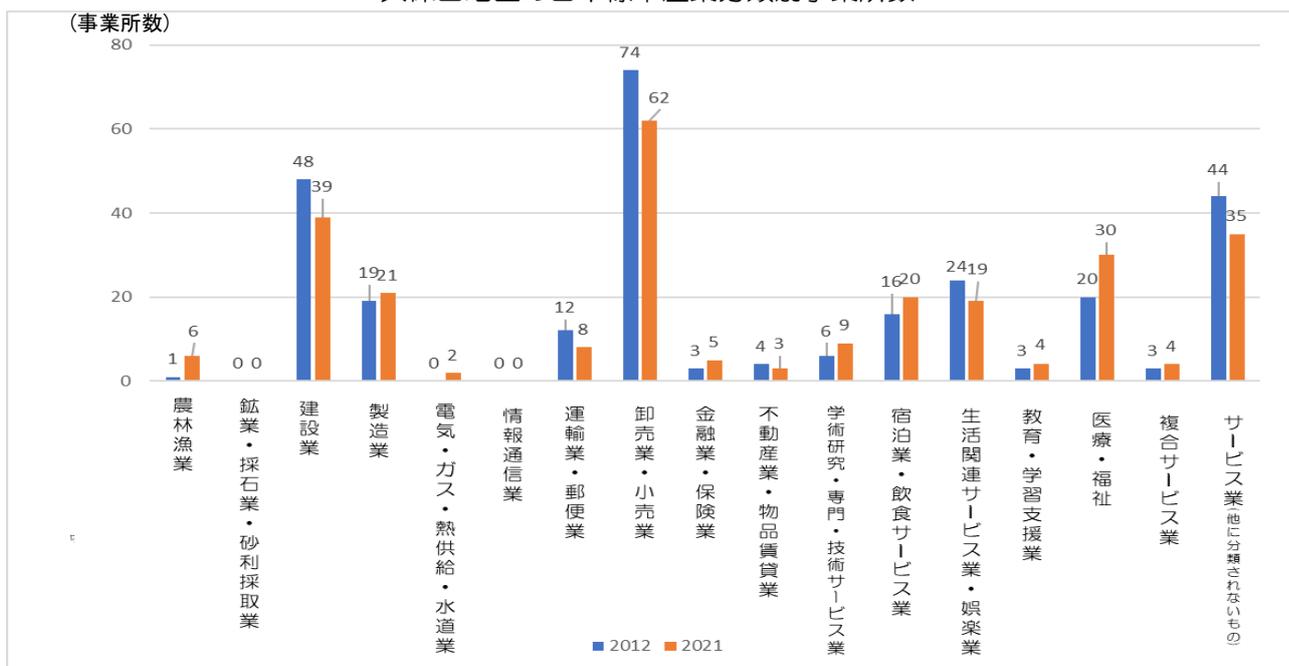


※出典は佐賀市(経済センサスを独自集計)

8. 久保田地区の日本標準産業分類別事業所数、従業員数推移

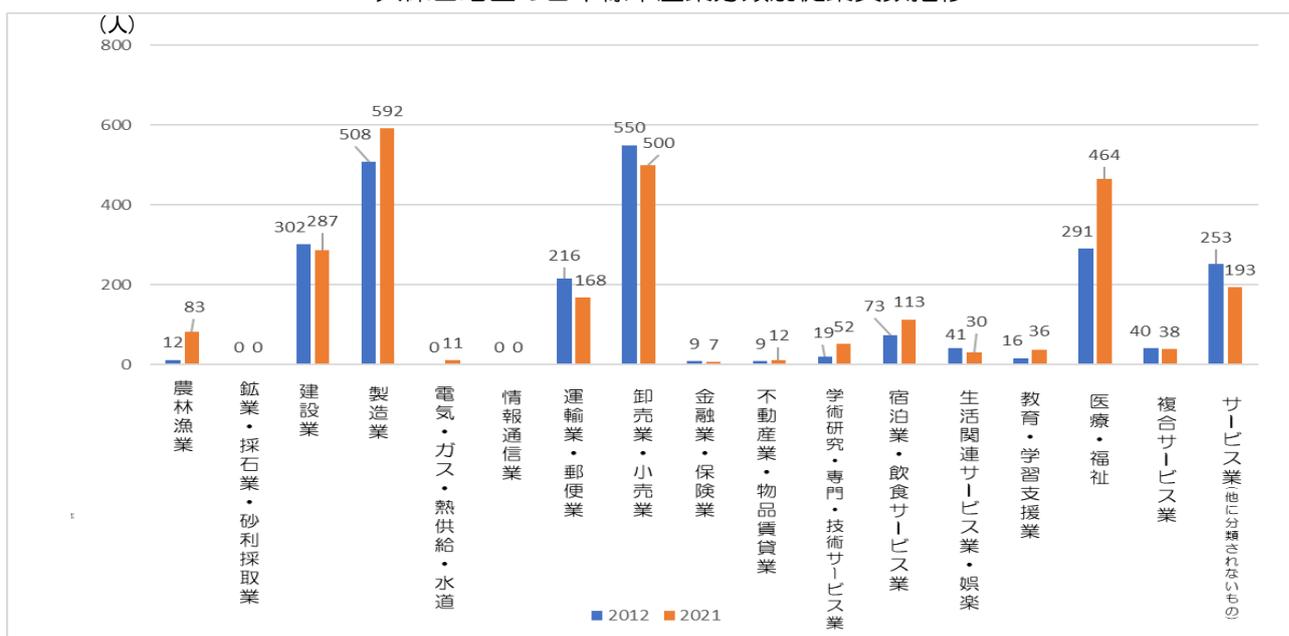
久保田地区の事業所は日本標準産業分類別では「卸売業・小売業」が最も多いが、事業所数は減少傾向にあります。事業所数が増えているのは、「農林漁業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「金融業・保険業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」、「複合サービス」となっています。

久保田地区の日本標準産業分類別事業所数



久保田地区の従業員数は日本標準産業分類別では 2021 年現在「製造業」が最も多く増加傾向にあります。従業員数が増えているのは、「農林漁業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「不動産業・物品賃貸業」、「学術研究・専門・技術サービス業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」となっています。

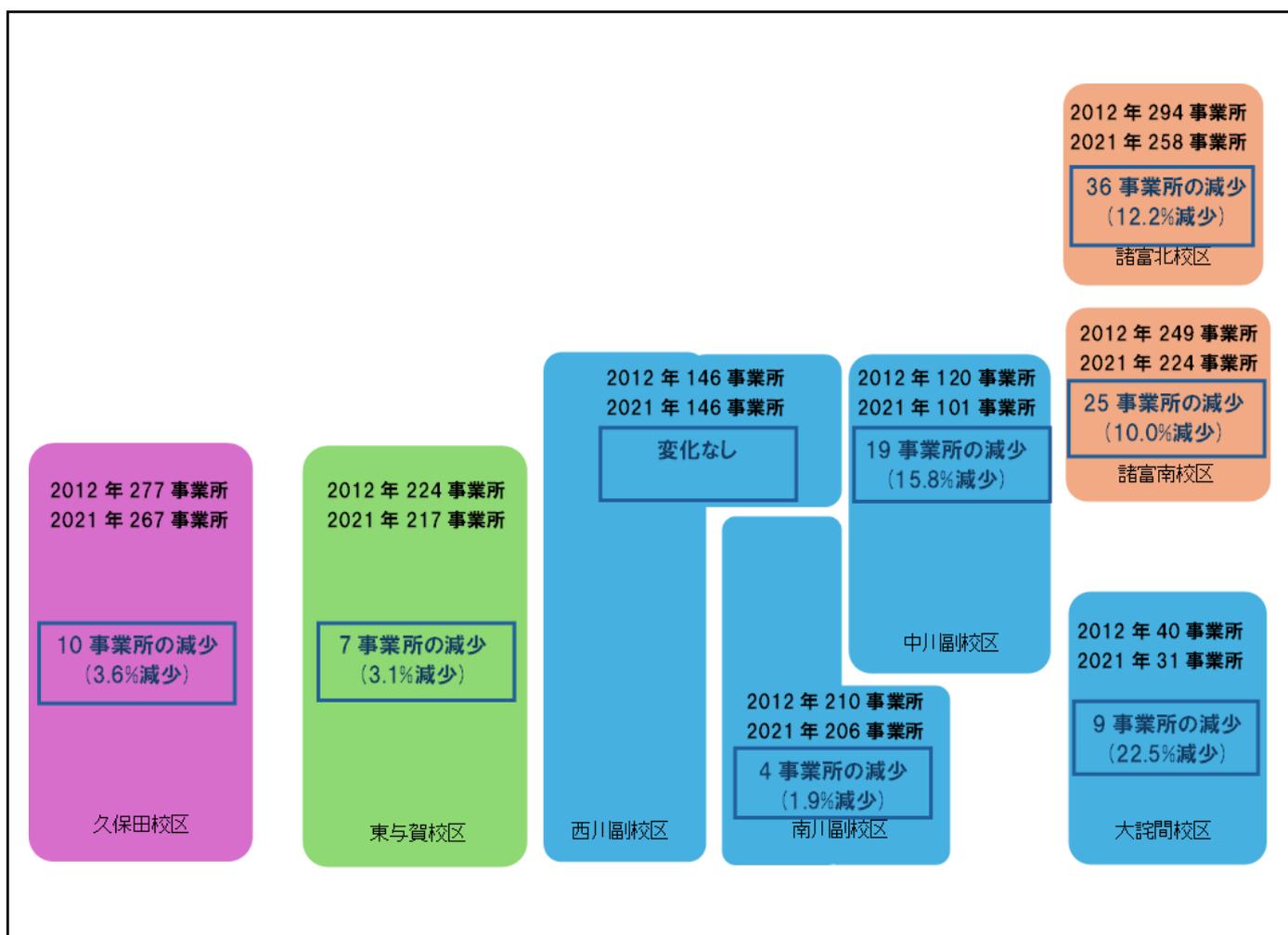
久保田地区の日本標準産業分類別従業員数推移



9. 校区別事業所数推移

事業所を校区別にみると、2021年現在、最も事業所が多いのが、「久保田校区」267事業所で、次いで「諸富北校区」258事業所、「諸富南校区」224事業所と続きます。西川副校区は事業所数は横ばいとなっていますが、他の校区ではすべて減少しています。特に減少率が高いのが「大詫間校区」となっています。

校区別事業所数推移

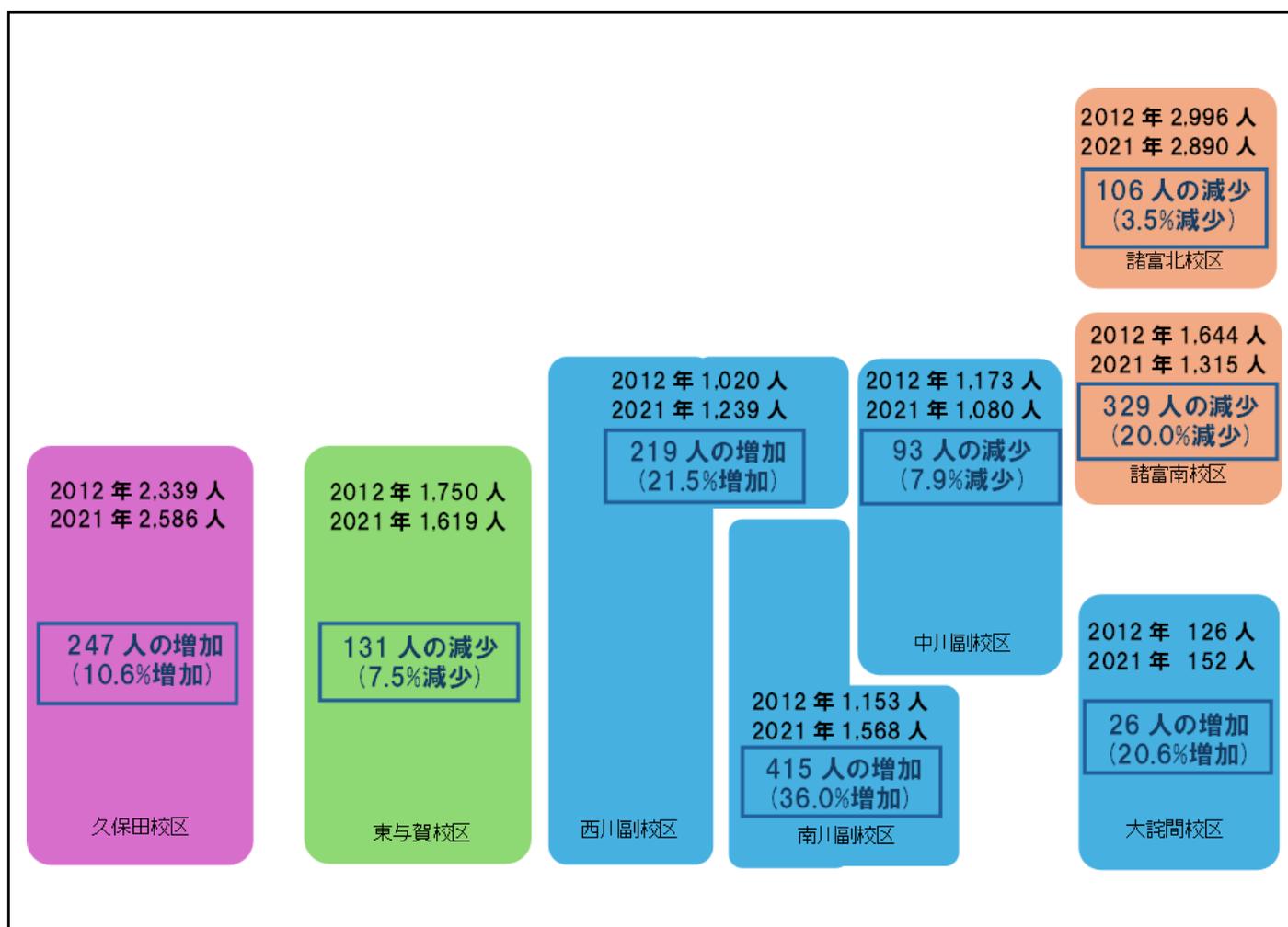


出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

10. 校区別従業員数推移

従業員数を校区別にみると、2021年現在、最も従業員が多いのが、「諸富北校区」2,890人で、次いで「久保田校区」2,586人、「東与賀校区」1,619人と続きます。従業員数が増加しているのは、久保田地区の「久保田校区」、川副地区の「西川副校区」、「南川副校区」、「大詫間校区」となっています。他の校区では従業員数は減少しており、特に減少率が高いのが「諸富南校区」となっています。

校区別従業員数推移

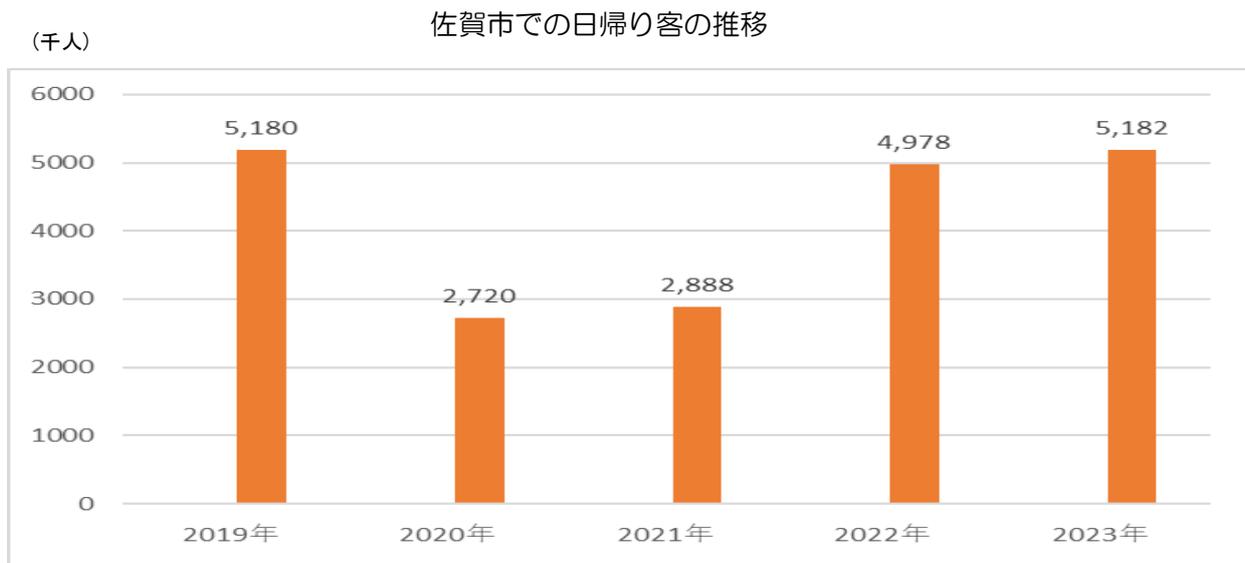


出典：佐賀市(経済センサスを独自集計)

1. 佐賀市の観光客数

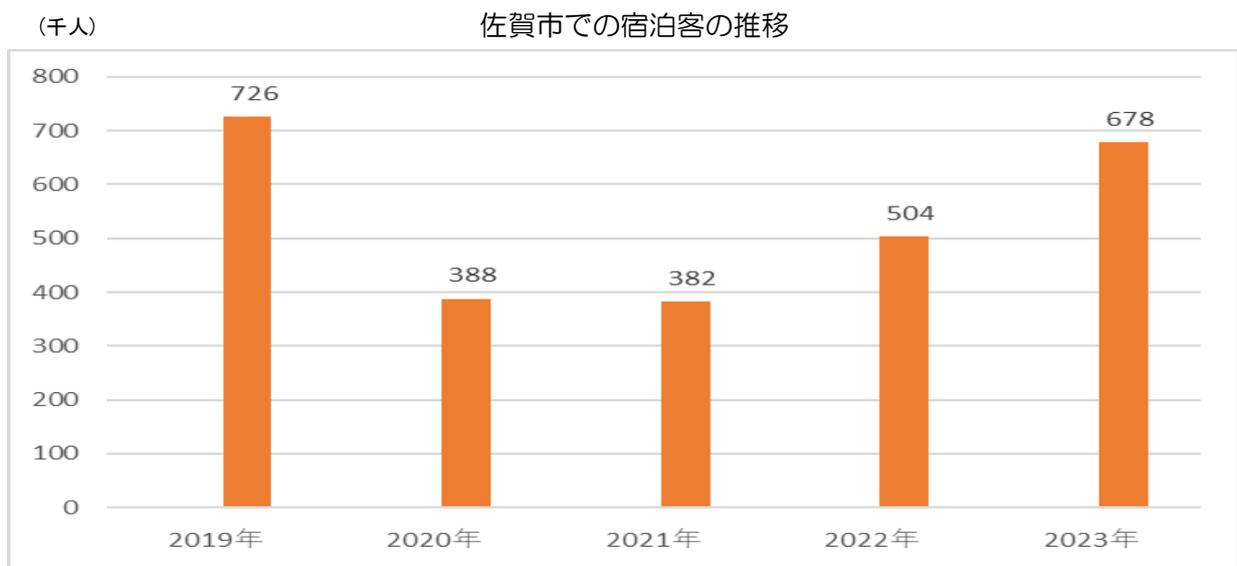
佐賀市を訪れた観光客の推移は以下のとおりです。

日帰り客は2023年で5,182千人であり、2020年以降、増加傾向にあります。



出典：佐賀市統計データ

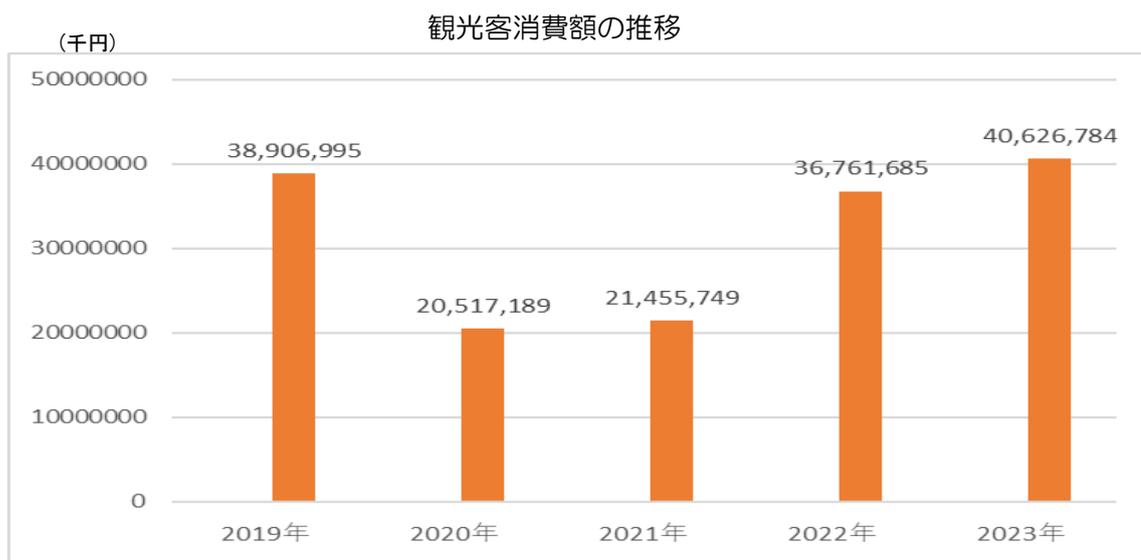
宿泊客は2023年で678千人であり、2021年以降、増加傾向にあります。



出典：佐賀市統計データ

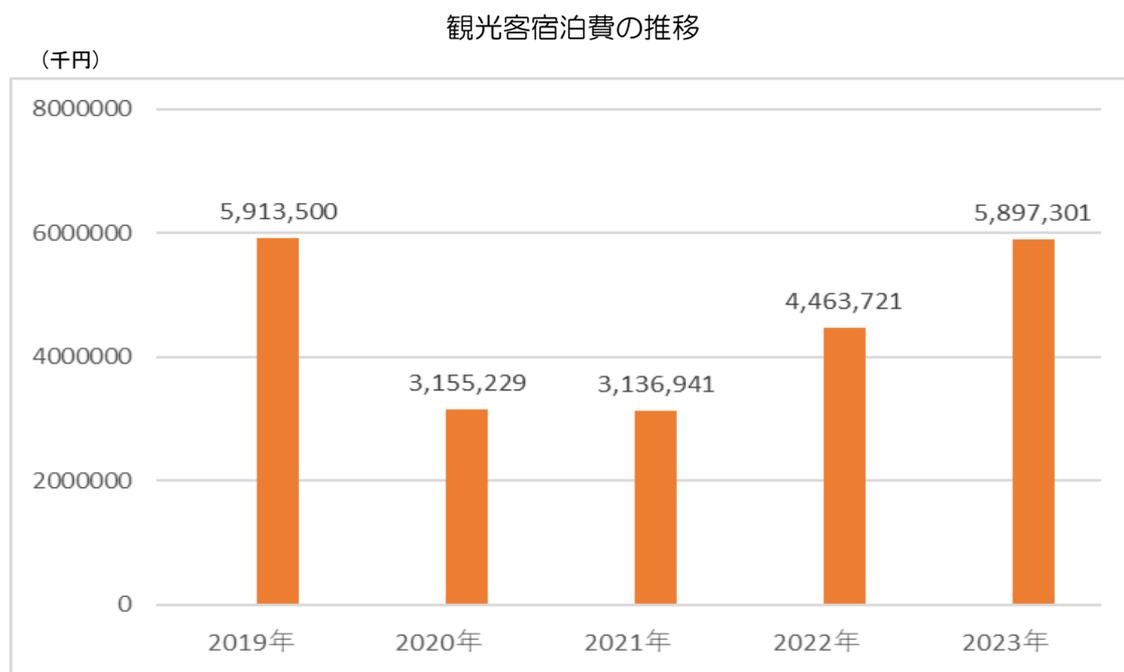
2. 佐賀市の観光客消費額

佐賀市を訪れた観光客の消費動向では、全体の消費額が2023年で406億円であり、2020年以降増加傾向にあります。



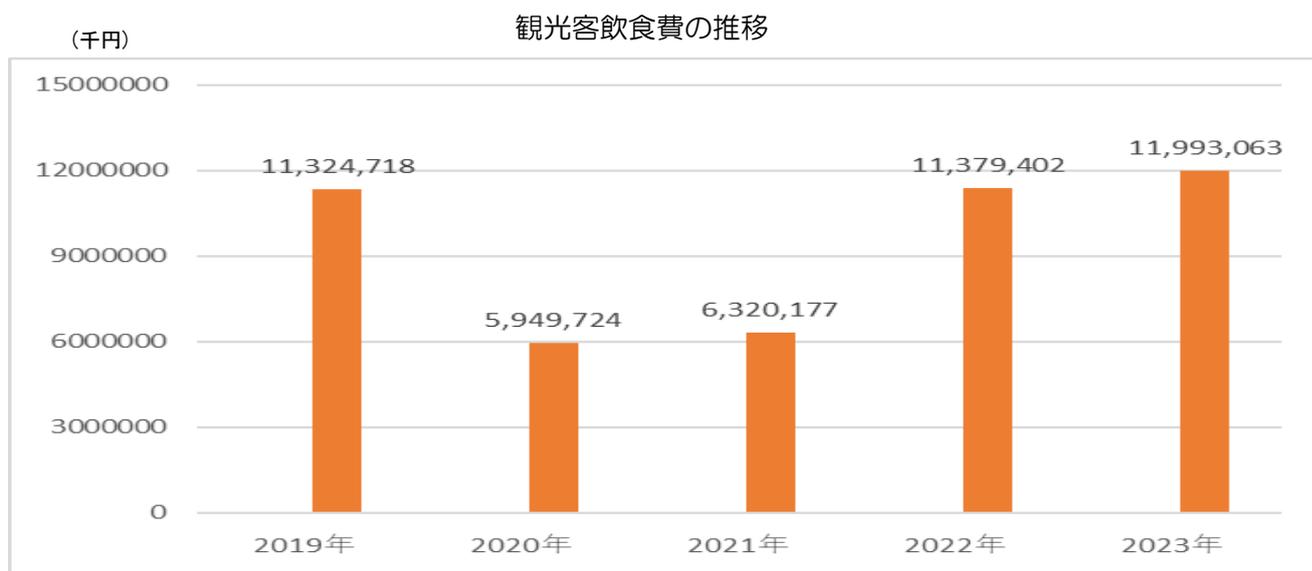
出典：佐賀市統計データ

佐賀市を訪れた観光客の宿泊消費額では、2023年で58億円であり、2021年以降増加傾向にあります。



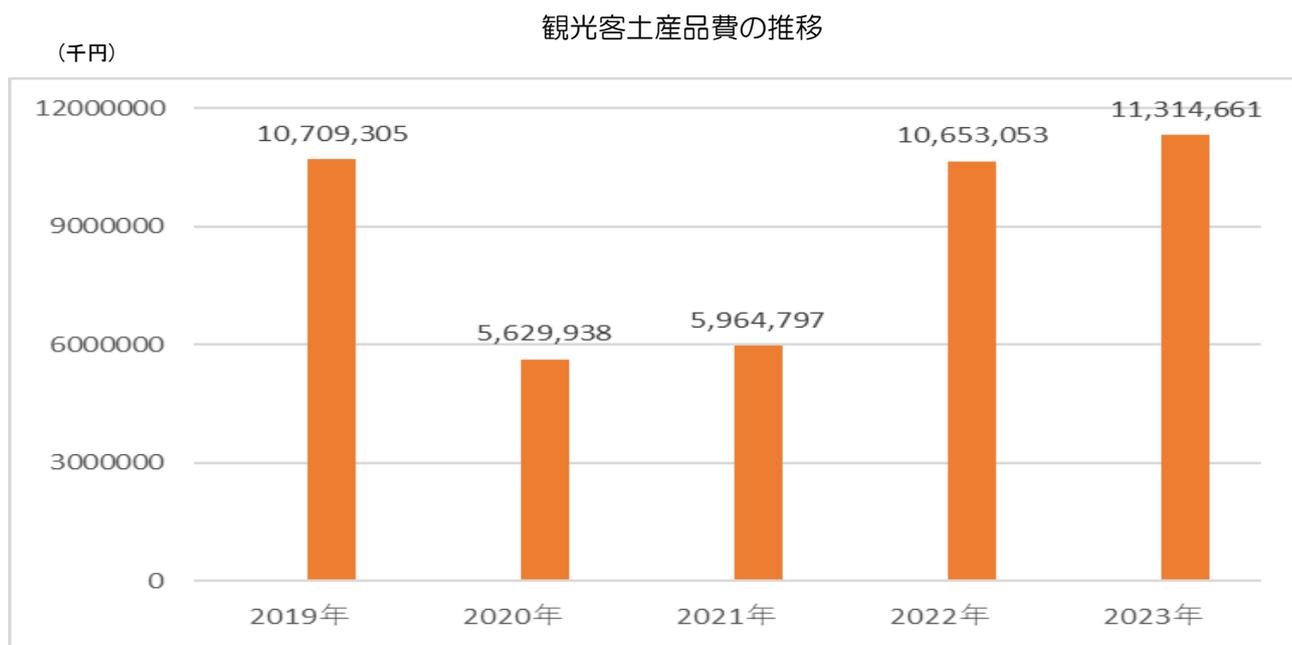
出典：佐賀市統計データ

佐賀市を訪れた観光客の飲食消費額では、2023年で119億円であり、2020年以降増加傾向にあります。



出典：佐賀市統計データ

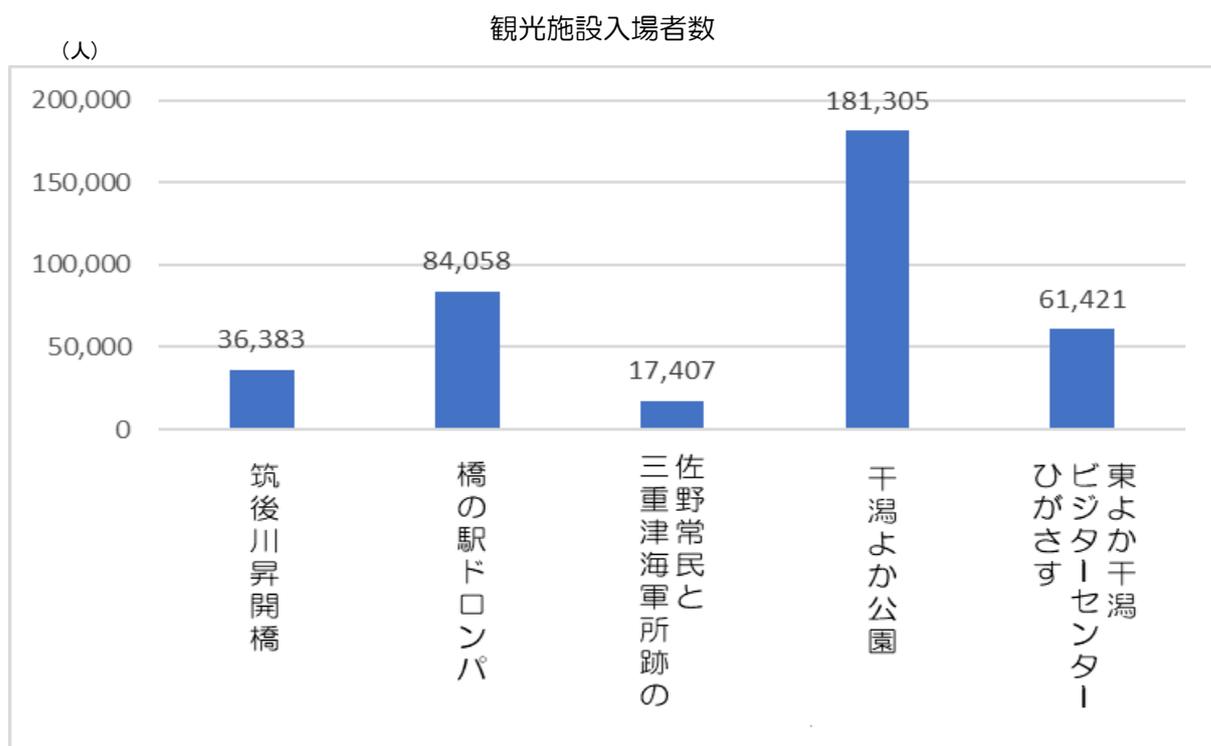
佐賀市を訪れた観光客の土産品消費額では、2023年で113億円であり、2020年以降増加傾向にあります。



出典：佐賀市統計データ

3. 観光施設入場者数

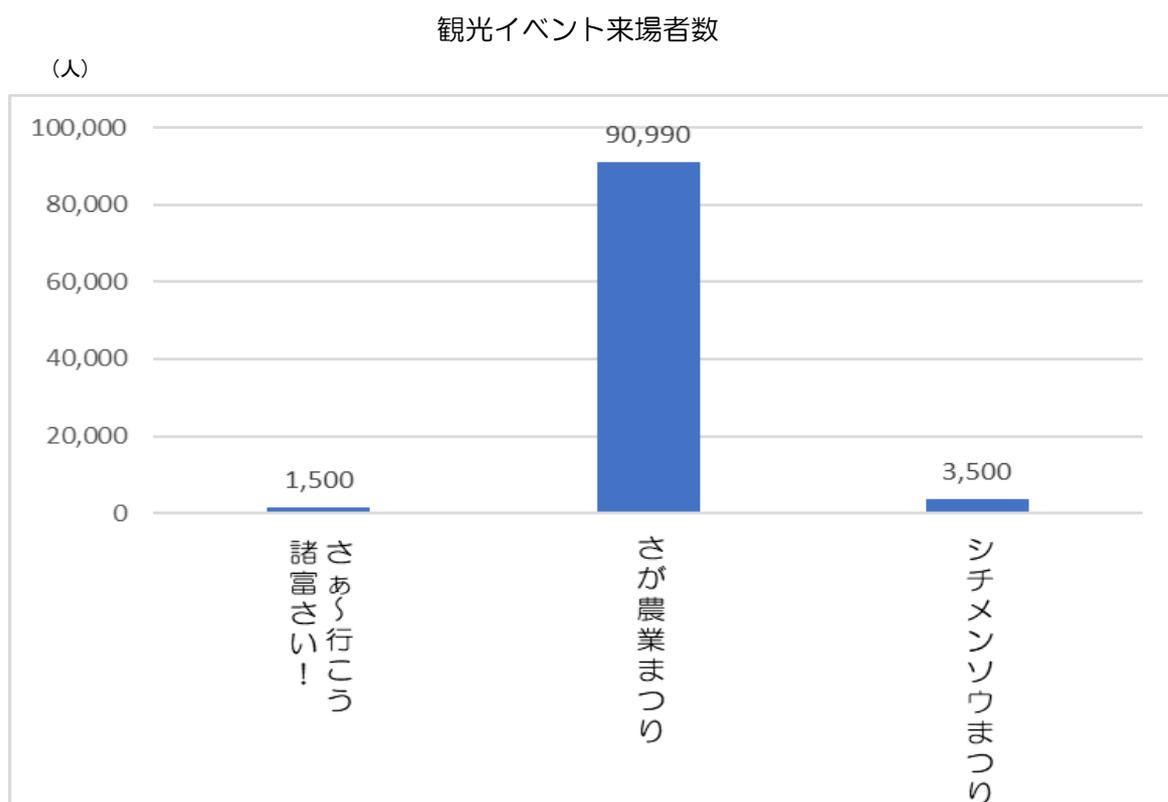
佐賀市南エリアの観光施設等の入場者数では、「干潟よか公園」が年間約 18 万人で最も多くなっています。次いで、「橋の駅ドロンパ」、「東よか干潟ビジターセンターひがさす」と続きます。



出典：佐賀市統計データ

4. 観光イベント来場者数

佐賀市南エリアの観光イベントでの来場者数では、「さが農業まつり」が約 9 万人で最も多くなっています。次いで、「シチメンソウまつり」、「さぁ～行こう諸富さい!」と続きます。



出典：佐賀市統計データ

1. アンケート調査の目的と方法

■目的

佐賀市南商工会地域において、地域資源などを活用した交流人口増大を進めていくために、現行のお客様の動向、及びエリア内の地域資源の認識などについて調査を行った。アンケート実施場所は佐賀市南商工会地域西部の久保田特産物直売所「味らん館」にて実施した。調査は平日と休日にて実施した。結果を今後の交流人口推進策に活かしていくものである。

■調査期間

- ・平日 令和7年9月11(木) 9:00~13:00
- ・休日 令和7年9月13(土) 9:00~13:00

■調査方法

- ・平日と休日で実施した。
- ・それぞれ30通を回収目標とした。
- ・味らん館来店のお客様にアンケート調査協力を依頼して、ヒアリング方式にて調査を行った。資源については、複数種類あるため、必要に応じパネルにて資源説明を行いながら進めた。
- ・回答者には粗品をプレゼントした。粗品は、地元で採れたきゅうりとした。

■回収数

- ・平日 令和7年9月11(木) 39通
- ・休日 令和7年9月13(土) 40通

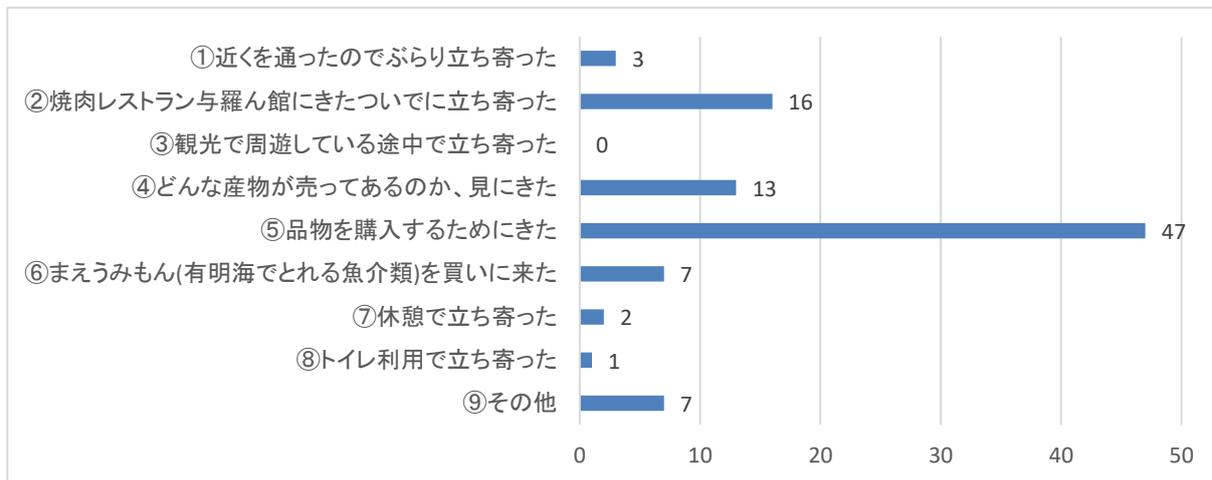
■調査の様子



2. アンケート調査結果

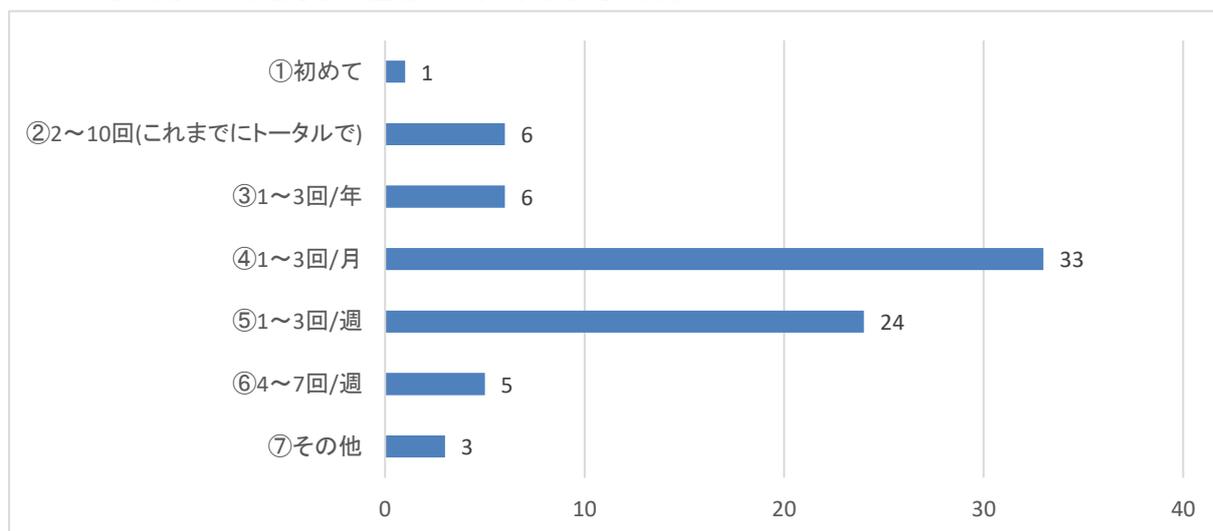
1. ”味らん館”はよくご利用されますか

問1 今回、味らん館に来店された目的は何ですか。(複数回答可)(平日・休日合計)



- ・味らん館に来店された目的としては、「品物を購入するためにきた」が47名、49%で最も多い。
- ・次いで、「焼肉レストラン与羅ん館にきたついでに立ち寄った」、「どんな産物が売ってあるのか、見に来た」と続く。
- ・ぶらり立ち寄られる方は、焼肉レストラン与羅ん館に来られた方が多く、味らん館来店につながっている。

問2 味らん館のご利用はどの程度ですか。おおよそで結構です。



- ・利用頻度については、「1～3回/月」が33名、42%で最も多い。
- ・次いで、「1～3回/週」と続く。「初めて」の方は1名であった。リピートのお客様利用が主となっている。

2. 「味らん館」に来る途中行ったところ、「これから行くところ」はどこですか

問3 今回のご移動では、どのようなところを巡られるご予定でしょうか。記入例を参考にいただき、訪問した場所やこれから訪問する場所などをご記入ください。

■訪れた場所

- ・味らん館に来るまでに訪問した場所では、隣接する「与羅ん館」が最も多かった。与羅ん館にランチ目的で来店され、味らん館に立ち寄られている。
- ・また、白石道の駅、よかの里などを利用して当館に来られており、物産所巡りを楽しまれているようである。
- ・日常生活の中で、スーパー、買い物、銀行、病院などに行った帰りに立ち寄られている。仕事途中でも立ち寄られている方もいる。
- ・観光資源では、森林公園に行かれた後に立ち寄られているケースもある。

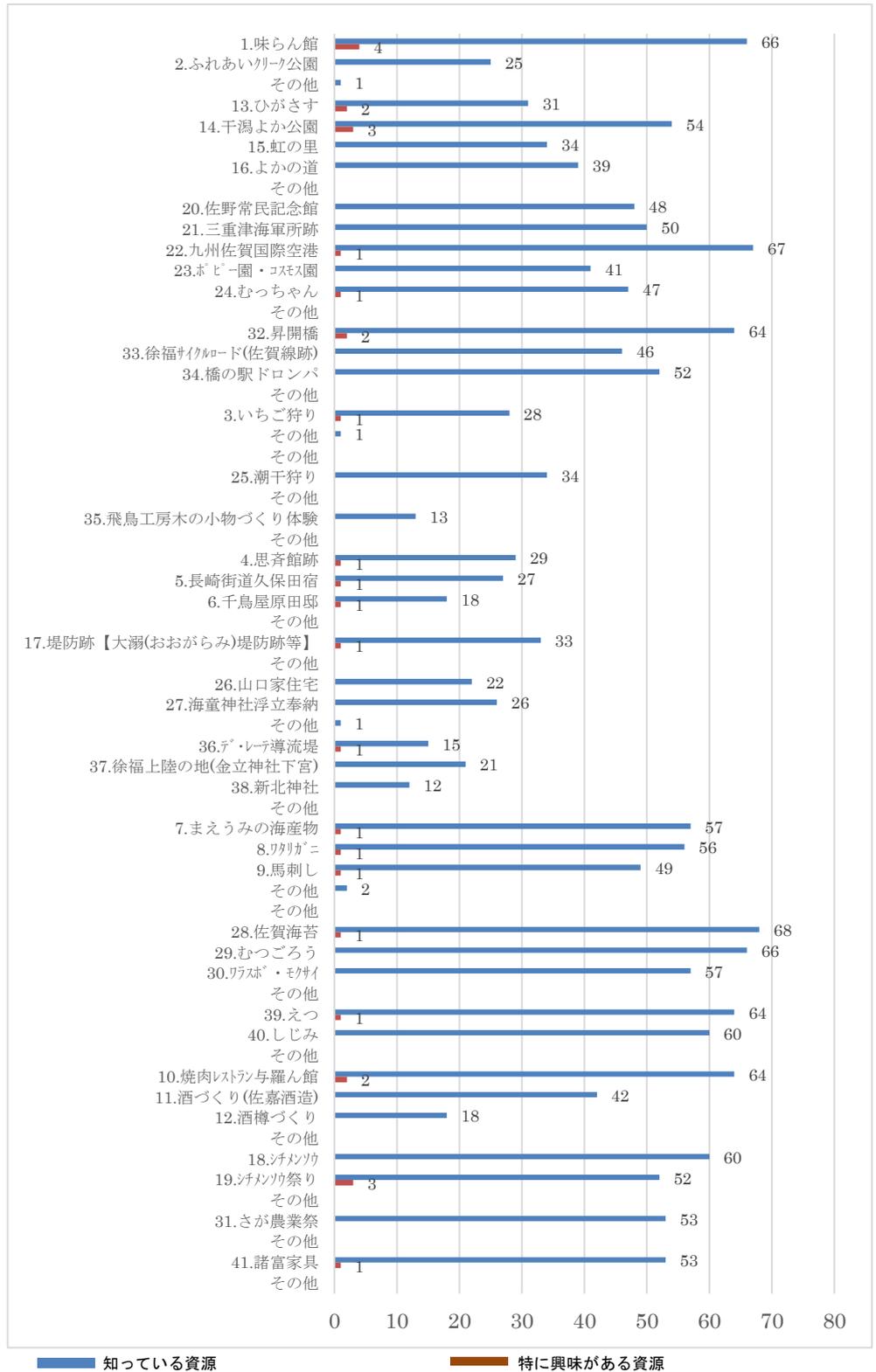
■これから訪れる場所

- ・これから訪問する場所では、隣接する「与羅ん館」が多い。与羅ん館にランチ目的で来店され、飲食前に味らん館に立ち寄られているものである。
- ・また、白石道の駅という回答も多く、物産所を巡られている。
- ・日常生活の中では、これから、ゆめタウン、大和イオン、モラージュなどのショッピングセンター、スーパー、買い物に向かうとする回答が多い。観光途中に立ち寄るというよりは、日常生活の中での立ち寄りが多い。

3. 佐賀市南部エリア(久保田・東与賀・川副・諸富)の地域資源についてお聞きします

問4 久保田・東与賀・川副・諸富には以下のような地域資源があります。知っている資源に○印をつけてください。そして特に興味がある資源(今後行ってみたい・食べてみたいなど)には◎印をお付けください。

観光地・物産	久保田町
	東与賀町
	川副町
	諸富町
体験	久保田町
	東与賀町
	川副町
	諸富町
歴史文化	久保田町
	東与賀町
	川副町
	諸富町
グルメ	久保田町
	東与賀町
	川副町
	諸富町
その他	久保田町
	東与賀町
	川副町
	諸富町



- ・知っている地域資源では、観光地・物産、グルメ系の回答が多く、これらの資源は認知度が高い。
- ・観光地・物産では、アンケートを実施した場所が味らん館であったため、味らん館の回答が多く、また九州佐賀国際空港、昇開橋、干潟よか公園、ドロンパなど、南部地域の主要な施設があがっている。
- ・体験では、「潮干狩り」、「いちご狩り」の認知度は高い。
- ・歴史文化は、久保田町、東与賀町の資源は比較的認知度が高いが、諸富町の資源はあまり知られていない。
- ・グルメでは、有明海産の海産物について認知度は高い。また、馬刺しについても比較的認知度は高い。
- ・その他では、焼肉レストラン与羅ん館の認知度は高い。
- ・特に興味がある資源としては、「味らん館」、「干潟よか公園」、「シチメンソウ祭り」などがあげられている。

4. 自由意見

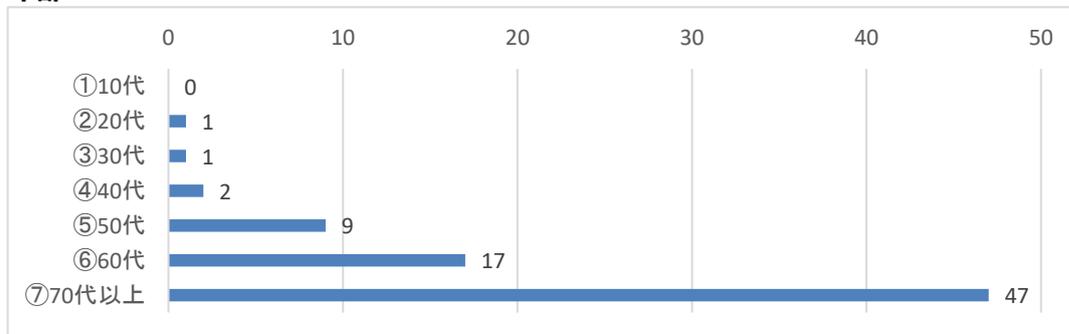
(上記の地域資源を活かした取り組みや佐賀市南部地域の活性化について、アイデアや意見があればご自由にお書きください)

- ・地域資源を活かした取り組みとしては、「海産物、農産物などの食」を活用することの意見が最も多く出ている。具体的には、「有明海の家産物・食の博覧会の開催」、「いつも食べれないものをPRする」などが出されている。
- ・食の展開に合わせて、環境を守っていくこととして「有明海の再生、あげまきなど食の復活」などがあげられている。
- ・そして、食を求めての直売所巡りなどが提案されている。
- ・またイベントの開催があげられている。
- ・地域資源も多くあることから、観光マップの作成やガイドコースを設定し、地域資源をもっとPRすることが提案されている。
- ・また身近なところで図書館の充実があげられている。

5. あなたの性別、年齢などを選んでください

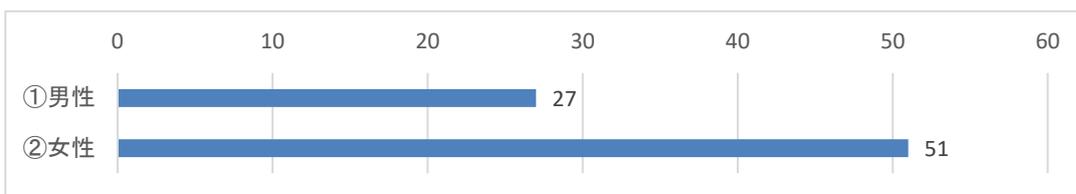
■性別・年齢など

◇年齢



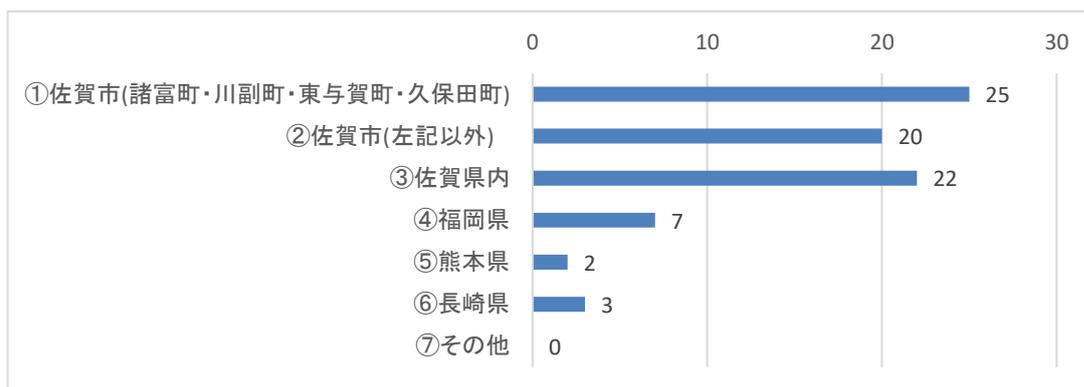
・年代は70代以上が最も多く、次いで、60代、50代と続く。高齢者の方の利用が多い。

◇性別



・回答者は、男性：女性＝1：2程度の割合となっている。

◇居住地域

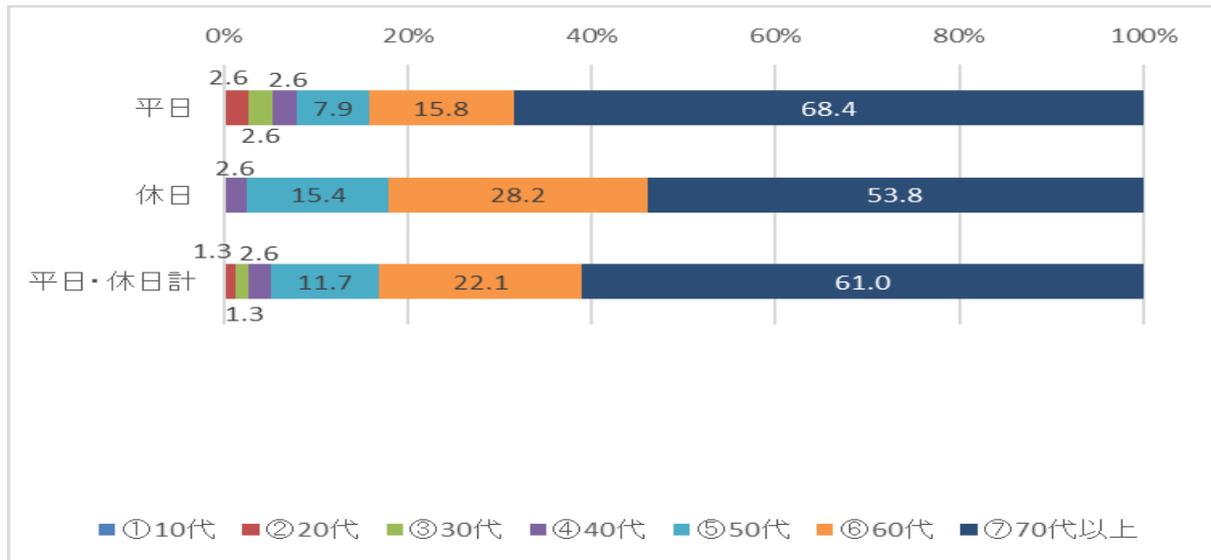


・居住地域は「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町)」が最も多く、25名32%となっている。次いで「佐賀県内(佐賀市を除く)」22名28%で隣接する小城市からが多い。「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町以外)」20名25%と続く。ほぼ、地元、佐賀市内、周辺市町からの利用が主となっている。

・福岡県、熊本県では、有明海沿岸道路沿いの市町からの来店が多い。

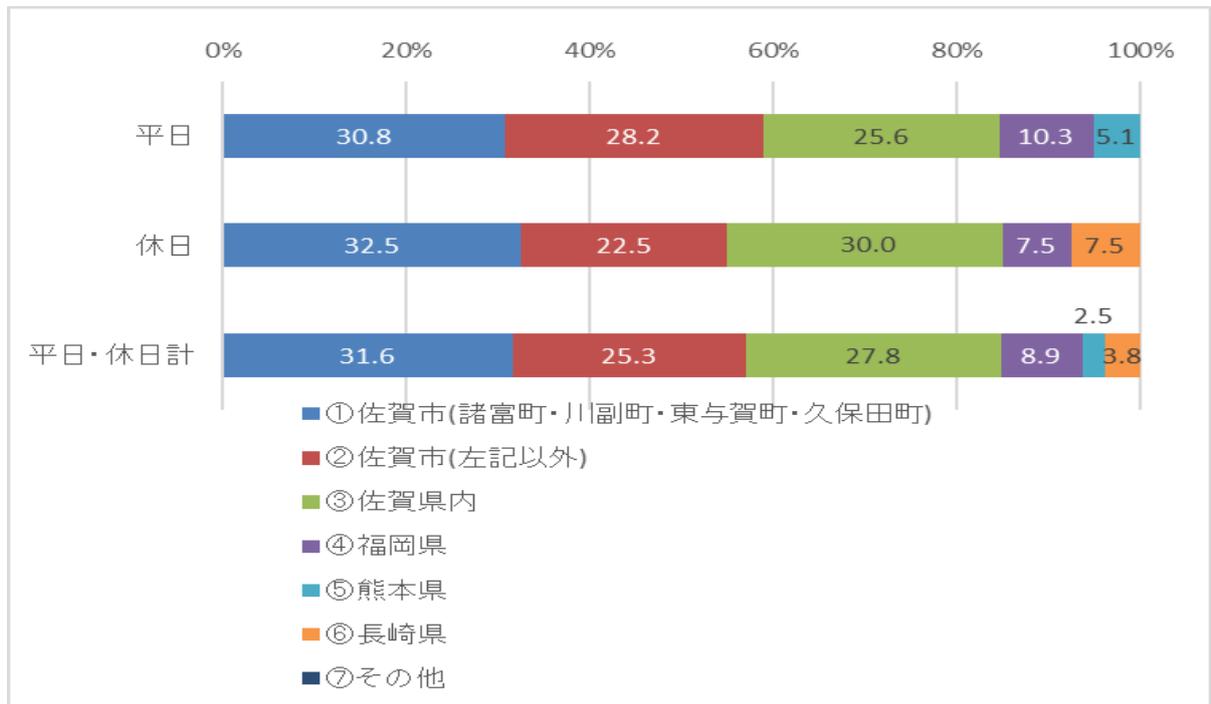
<平日と休日の比較(回答割合)>

◇年齢



・平日は休日に比べ、「70代以上」の利用割合が高く、休日は平日に比べ「50代」、「60代」の利用割合が高い。

◇居住地域



・平日は、「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町以外)」からの利用割合が高く、休日は、「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町)」、「佐賀県内」の利用割合が高いが、平日、休日でそこまで大きな変化は見られない。

3. アンケート結果のまとめ

アンケート結果をまとめると以下のとおりである。

■味らん館の来店目的

- ・味らん館に来店した目的としては、「物品を購入するためにきた」が最も多い。
- ・休日と比べ平日の方が、「品物を購入するためにきた」の回答割合がより高く、地元及び周辺地域の方が日常的に利用されているものである。

■味らん館の利用頻度

- ・利用頻度については、「1～3回/月」が最も多く、リピートのお客様が主となっている。
- ・平日が休日と比べ、「4～7回/週」など、よりリピート率が高いお客様が多くなっている。

■「味らん館に来る途中行ったところ」、「これから行くところ」

◇「味らん館に来る途中行ったところ」

- ・味らん館に来るまでに訪問した場所で、特徴的な場所としては、「与羅ん館」があげられる。600円のハンバーグラunchが人気で開店前より列ができています。与羅ん館にランチ目的で来店され、その後、味らん館に立ち寄られている。
- ・また、白石道の駅、よかの里など物産所巡りを楽しまれている方もいる。
- ・日常生活の中でスーパーや病院などに行った帰りに立ち寄られるケースも多い。
- ・観光資源では、「森林公園」があげられている。

◇「これから行くところ」

- ・これから訪問する場所で、特徴的な場所としては、同じく「与羅ん館」である。先に味らん館に寄ってから、与羅ん館でランチを食するものである。
- ・また、白石道の駅に向かうとする回答も多い。
- ・日常生活の中で、仕事途中で立ち寄られ、仕事に戻る方やスーパーや病院に向かうとする回答も多い。

■地域資源について

- ・知っている地域資源では、観光地・物産、グルメ系の回答が多い。
- ・観光地・物産では、アンケートを実施した場所が味らん館であったため、味らん館の回答が多く、また九州佐賀国際空港、昇開橋、干潟よか公園、ドロンパなど、南部地域の主要な施設が多くあげられている。
- ・体験では、「潮干狩り」、「いちご狩り」の認知度は高い。
- ・歴史文化は、久保田町、東与賀町の資源は比較的認知度が高いが、諸富町の資源はあまり知られていない。
- ・グルメでは、有明海産の海産物について認知度は高い。また、馬刺しについても比較的認知度

は高い。

- ・その他では、焼肉レストランと羅ん館の認知度は高い。
- ・特に興味がある資源としては、「味らん館」、「干潟よか公園」、「シチメンソウ祭り」があげられている。

■自由意見から

- ・地域資源を活かした取り組みとしては、「海産物、農産物などの食」を活用することの意見が最も多く出ている。具体的には、「有明海の家菜・食の博覧会の開催」などが出されている。
- ・食の展開に合わせて、環境を守っていくこととして「有明海の再生、あげまきなど食の復活」があげられている。
- ・そして、食を求めての直売所巡りなどが提案されている。
- ・またイベントの開催があげられている。
- ・地域資源も多くあることから、観光マップの作成やガイドコースを設定し、地域資源をもっとPRすることがあげられている。

■年齢など

- ・年代は70代以上が最も多く、次いで、60代、50代と続く。高齢者の方の利用が多い。
- ・回答者は、男性：女性＝1：2程度の割合となっている。
- ・居住地域は「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町)」が最も多く、次いで「佐賀県内(佐賀市を除く)」、「佐賀市(久保田町・東与賀町・川副町・諸富町以外)」と続く。福岡県、熊本県では、有明海沿岸道路沿いの市町からの来店が多い。

■アンケート調査全体を通しての所感

- ・アンケート調査の中で、地域資源の説明が必要だったことと、高齢者の来店が多かったため、基本、ヒアリング形式で調査を行った。地域資源を説明することで、関心ももってもらえた。
- ・当館は、駐車場も広くて停めやすく、地元及び周辺地域の高齢者の方の利用が主といった感じであった。また、与羅ん館と隣接していることで立ち寄りされている方も多いところであった。
- ・佐賀市南部地域の最大の魅力的資源は、有明海の家産物、佐賀平野の家産物であった。食を通じた資源の活用でこの地域のポテンシャルを引き出すことが望まれる。
- ・また今回アンケート回答者に粗品として、地元久保田町産の朝採れきゅうりを進呈したが、満足感があったようである。きゅうりも地域資源のひとつであり、今回知ってもらえるいい機会であった。